



ユーザーガイド

# AWS サインイン



# AWS サインイン: ユーザーガイド

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは、Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は、Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

# Table of Contents

AWS サインインとは .....	1
用語 .....	1
管理者 .....	1
アカウント .....	2
認証情報 .....	2
企業認証情報 .....	2
プロフィール .....	2
ルートユーザーの認証情報 .....	3
ユーザー .....	3
検証コード .....	3
利用可能なリージョン .....	3
ユーザータイプを決定する .....	3
ルートユーザー .....	4
IAM ユーザー .....	4
IAM Identity Center ユーザー .....	5
フェデレーテッドアイデンティティ .....	6
AWS Builder ID ユーザー .....	6
サインインを確認する URL .....	6
AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL .....	7
AWS アクセスポータル .....	7
IAM ユーザーサインイン URL .....	8
フェデレーテッド ID URL .....	8
AWS ビルダー ID URL .....	8
セキュリティに関するベストプラクティス .....	9
にサインインする AWS Management Console .....	10
ルートユーザーとしてサインインする .....	10
ルートユーザーとしてサインインする .....	11
追加情報 .....	13
IAM ユーザーとしてサインインする .....	13
IAM ユーザーとしてサインインするには .....	14
AWS アクセスポータルにサインインする .....	15
AWS アクセスポータルにサインインするには .....	15
追加情報 .....	16
を使用してサインインする AWS Command Line Interface .....	17

追加情報 .....	17
フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン .....	18
でサインインする AWS ビルダー ID .....	19
許可リストのドメイン .....	20
利用可能なリージョン .....	21
を作成する AWS ビルダー ID .....	21
信頼されたデバイス .....	22
AWS ツールとサービス .....	22
プロフィールの編集 .....	24
パスワードの変更 .....	25
すべてのアクティブなセッションを削除する .....	26
を削除する AWS ビルダー ID .....	26
多要素認証を管理する (MFA) .....	27
使用可能なMFAタイプ .....	27
デバイスを登録する AWS ビルダー ID MFA .....	30
セキュリティキーをデバイスとして登録する AWS ビルダー ID MFA .....	31
デバイスの名前 AWS ビルダー ID MFAを変更する .....	32
MFA デバイスを削除する .....	32
プライバシーとデータ .....	32
AWS ビルダー ID データをリクエストする .....	33
AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報 .....	33
が既存の IAM Identity Center ID とどのように AWS ビルダー ID 関連しているか .....	34
複数の AWS ビルダー ID プロファイル .....	34
からサインアウトする AWS .....	35
からサインアウトする AWS Management Console .....	35
AWS アクセスポータルからのサインアウト .....	37
Builder ID AWS からサインアウトする .....	37
サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング .....	39
AWS Management Console 認証情報が機能しない .....	40
AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない .....	41
MFA デバイスが紛失したか、動作が停止した .....	41
AWS Management Console サインインページにアクセスできない .....	42
AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法 .....	42
アカウント検証コードが必要 .....	44
AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった .....	44
のIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました AWS アカウント .....	48

のフェデレーション ID パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント .....	49
既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しい を作成できない .....	49
利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります .....	50
サインインの問題 AWS Support については、 に連絡する必要があります .....	50
請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります .....	50
小売注文について質問があります .....	50
の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント .....	50
AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない .....	50
の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント .....	51
サインインしようとする、「ユーザーではありませんが、ユーザーです」というエラーが表示されます。 .....	54
AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング .....	55
メールアドレスが既に使われています .....	55
メールの確認を完了させることができない .....	56
サインインしようとする、「自分ではありません。自分です」というエラーが表示されます。 .....	56
パスワードを忘れてしまいました .....	56
新しいパスワードを設定できない .....	57
パスワードが機能しません。 .....	57
パスワードが機能せず、Builder ID の E メールアドレスに送信された E AWS メールにアクセスできなくなります .....	57
有効にできない MFA .....	58
認証アプリケーションをMFAデバイスとして追加できない .....	58
MFA デバイスを削除できない .....	58
認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます .....	58
サインアウトしても完全にサインアウトされない .....	59
まだ問題を解決しようとしています .....	59
ドキュメント履歴 .....	60
.....	lxii

# AWS サインインとは

このガイドは、ユーザーのタイプに応じて、Amazon Web Services (AWS) にサインインするさまざまな方法を理解するのに役立ちます。ユーザータイプとアクセスする AWS リソースに基づいてサインインする方法の詳細については、以下のチュートリアルのうちいずれかを参照してください。

- [にサインインする AWS Management Console](#)
- [AWS アクセスポータルにサインインする](#)
- [フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン](#)
- [を使用してサインインする AWS Command Line Interface](#)
- [でサインインする AWS ビルダー ID](#)

へのサインインに問題がある場合は AWS アカウント、「」を参照してください[サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング](#)。のヘルプについては、AWS ビルダー ID 「」を参照してください[AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング](#)。を作成する AWS アカウントの場合 [にサインアップします AWS](#)。へのサインアップがユーザーまたは組織にどのように AWS 役立つかの詳細については、「[お問い合わせ](#)」を参照してください。

## トピック

- [用語](#)
- [AWS サインインの利用可能なリージョン](#)
- [ユーザータイプを決定する](#)
- [サインインを確認する URL](#)
- [AWS アカウント 管理者向けのベストプラクティス](#)

## 用語

Amazon Web Services (AWS) では、[一般的な用語](#)を使用してサインインプロセスを説明しています。これらの用語を読んで理解することをお勧めします。

## 管理者

管理者または AWS アカウント 管理者とも呼ばれます IAM。管理者 (通常は情報技術 (IT) 担当者) は、AWS アカウントを監督する個人です。管理者は、組織の他のメンバーよりも AWS アカウントに対して高いレベルの権限を持っています。管理者は、 の設定を確立して実装します AWS アカウ

ント。また、IAMまたはIAM Identity Center ユーザーも作成します。管理者は、これらのユーザーにアクセス認証情報とにサインインURLするためのサインインを提供します AWS。

## アカウント

標準には、AWS リソースと、それらのリソースにアクセスできる ID の両方 AWS アカウント が含まれます。アカウントは、アカウント所有者の E メールアドレスとパスワードに関連付けられます。

## 認証情報

アクセス認証情報またはセキュリティ認証情報とも呼ばれます。認証および認可を実行する際にシステムは、誰が呼び出しをしているかを特定し、リクエストされたアクセスを許可するかどうかを決定するために認証情報を使用します。認証情報は、ユーザーがサインインして AWS リソースにアクセス AWS するために提供する情報です。人間のユーザーの認証情報には、E メールアドレス、ユーザー名、ユーザー定義のパスワード、アカウント ID またはエイリアス、検証コード、および 1 回の多要素認証 (MFA) コードを含めることができます。プログラムによるアクセスには、アクセスキーを使用することもできます。可能な場合は、短期のアクセスキーの使用をお勧めします。

認証情報の詳細については、「[AWS セキュリティ認証情報](#)」を参照してください。

### Note

ユーザーが送信しなければならない認証情報の種類は、ユーザータイプによって異なります。

## 企業認証情報

ユーザーが企業ネットワークやリソースにアクセスする際に提供する認証情報。社内管理者は、社内ネットワークとリソースへのアクセスに使用するのと同じ認証情報 AWS アカウント を使用するように設定できます。これらの認証情報は、管理者またはヘルプデスクの従業員から提供されません。

## プロフィール

Builder ID AWS にサインアップすると、プロフィールが作成されます。プロフィールには、指定した連絡先情報と、多要素認証 (MFA) デバイスとアクティブなセッションを管理する機能が含まれます。また、プライバシーやデータの取り扱い方法については、プロフィールをご覧ください。プロ

フィールドとそれがどのように AWS アカウントと関連しているかについての詳細は、「[AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)」を参照してください。

## ルートユーザーの認証情報

ルートユーザーの認証情報は、AWS アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードです。セキュリティを強化するために MFA、をルートユーザーの認証情報に追加することを強くお勧めします。ルートユーザー認証情報は、アカウント内のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセスを提供します。ルートユーザーの詳細については、「[ルートユーザー](#)」を参照してください。

## ユーザー

ユーザーは、製品への API 呼び出し AWS や AWS リソースへのアクセス許可を持つ人またはアプリケーションです。各ユーザーには、他のユーザーと共有されない一連の固有のセキュリティ認証情報があります。これらの認証情報は、AWS アカウントのセキュリティ認証情報とは異なります。詳細については、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

## 検証コード

検証コードは、[多要素認証 \(MFA\) を使用してサインインプロセス中に ID](#) を検証します。認証コードの配信方法はさまざまです。テキストメッセージまたは E メールで送信できます。詳細については、管理者に確認してください。

## AWS サインインの利用可能なリージョン

AWS サインインは、一般的に使用されるいくつかので使用できます AWS リージョン。この可用性により、AWS サービスやビジネスアプリケーションへのアクセスが容易になります。サインインがサポートするリージョンの完全なリストについては、「[AWS サインインエンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。

## ユーザータイプを決定する

サインイン方法は AWS、ユーザーの種類によって異なります。は、ルートユーザー、IAM ユーザー、IAM Identity Center のユーザー、またはフェデレーション ID AWS アカウントとして管理できます。Builder ID AWS プロファイルを使用して、特定の AWS サービスやツールにアクセスできます。さまざまなユーザータイプを以下に示します。

### トピック

- [ルートユーザー](#)
- [IAM ユーザー](#)
- [IAM Identity Center ユーザー](#)
- [フェデレーテッドアイデンティティ](#)
- [AWS Builder ID ユーザー](#)

## ルートユーザー

アカウントオーナーまたはアカウントルートユーザーとも呼ばれます。ルートユーザーとして、のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権があります AWS アカウント。を初めて作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての AWS サービスとリソースへの完全なアクセス権を持つシングルサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウントのルートユーザーです。アカウントの作成に使用したメールアドレスとパスワードを使用して、ルートユーザーとしてサインインできます。ルートユーザーは [AWS Management Console](#) の方法でサインインします。サインインの手順については、「[ルートユーザー AWS Management Console としてサインインする](#)」を参照してください。

### Important

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての AWS サービス およびリソースへの完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザーの認証情報を必要とするタスク](#)」を参照してください。

ルートユーザーを含む IAM ID の詳細については、[IAM 「ID \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)」](#)を参照してください。

## IAM ユーザー

IAM ユーザーは、で作成するエンティティです AWS。このユーザーは、特定のカスタムアクセス権を持つ AWS アカウント 内のアイデンティティです。IAM ユーザー認証情報は、へのサインインに使用される名前とパスワードで構成されます [AWS Management Console](#)。サインインの手順につ

いては、「[IAM ユーザー AWS Management Console としてにサインインする](#)」を参照してください。

IAM ユーザーを含む IAM ID の詳細については、[IAM「ID \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)」](#)を参照してください。

## IAM Identity Center ユーザー

IAM Identity Center ユーザーは のメンバーであり AWS Organizations 、 アクセス AWS ポータルを通じて複数の AWS アカウント およびアプリケーションへのアクセスを許可できます。会社が Active Directory または別の ID プロバイダーを IAM Identity Center と統合している場合、IAM Identity Center のユーザーは会社の認証情報を使用してサインインできます。IAM Identity Center は、管理者がユーザーを作成できる ID プロバイダーにすることもできます。ID プロバイダーに関係なく、IAM Identity Center のユーザーは、組織の特定のサインインである AWS アクセスポータルを使用してサインインURLします。IAM Identity Center ユーザーは からサインインできません AWS Management Console URL。

IAM Identity Center のヒューマンユーザーは、次のいずれかURLから AWS アクセスポータルを取得できます。

- 管理者またはヘルプデスクの従業員からのメッセージ
- Identity Center への招待 AWS を含む からの E IAM メール

### Tip

IAM Identity Center サービスによって送信されるすべての E メールは、アドレス <no-reply@signin.aws> または <no-reply@login.awsapps.com> のいずれかから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

サインインの手順については、「[AWS アクセスポータルにサインインする](#)」を参照してください。

### Note

後でアクセスできるように、AWS アクセスポータルURLの組織固有のサインインをブックマークすることをお勧めします。

Identity Center の詳細については、IAM [「IAM Identity Center とは」](#)を参照してください。

## フェデレーテッドアイデンティティ

フェデレーテッド ID は、Login with Amazon、Facebook、Google、またはその他の OpenID Connect () 互換 IdP など、よく知られている外部 ID プロバイダー (IdP) を使用してサインインできるユーザーです。[OpenID OIDC](#) ウェブ ID フェデレーションを使用すると、認証トークンを受け取り、そのトークンをのリソースを使用するアクセス許可を持つ IAM ロールにマップ AWS するの一時的なセキュリティ認証情報と交換できます AWS アカウント。AWS Management Console または AWS アクセスポータルでサインインしません。代わりに、使用している外部アイデンティティによってサインイン方法が決まります。

詳細については、「[フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン](#)」を参照してください。

## AWS Builder ID ユーザー

AWS Builder ID ユーザーとして、アクセスする AWS サービスまたはツールに特にサインインします。AWS Builder ID ユーザーは、既に持っている AWS アカウントを、または作成する を補完します。AWS Builder ID はユーザーを個人として表し、それを使用してなしで AWS のサービスやツールにアクセスできます AWS アカウント。また、情報を確認したり更新したりできるプロフィールもあります。詳細については、「[でサインインする AWS ビルダー ID](#)」を参照してください。

## サインインを確認する URL

ユーザーの種類 AWS に応じて URLs にアクセスするには、次のいずれか AWS を使用します。詳細については、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

### トピック

- [AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL](#)
- [AWS アクセスポータル](#)
- [IAM ユーザーサインイン URL](#)
- [フェデレーテッド ID URL](#)
- [AWS ビルダー ID URL](#)

## AWS アカウント ルートユーザーのサインイン URL

ルートユーザーは、サインインページ AWS AWS Management Console から にアクセスします <https://console.aws.amazon.com/>。

このサインインページには、IAMユーザーとしてサインインするオプションもあります。

## AWS アクセスポータル

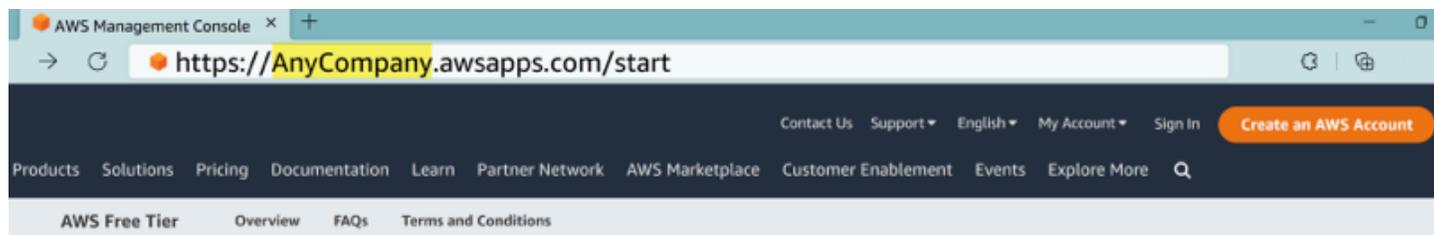
AWS アクセスポータルは、IAM Identity Center のユーザーがサインインしてアカウントにアクセスするための特定のサインインです。管理者が IAM Identity Center でユーザーを作成すると、管理者は、IAMユーザーが Identity Center への招待メールを受信するか、管理者またはヘルプデスクの従業員からワンタイムパスワードと AWS アクセスポータル を含むメッセージを受信するかを選択しますURL。特定のサインインの形式URLは、次の例のようになります。

```
https://d-xxxxxxxxx.awsapps.com/start
```

または

```
https://your_subdomain.awsapps.com/start
```

特定のサインインURLは、管理者がカスタマイズできるため異なります。特定のサインインは、文字 D で始まり、その後 10 個のランダム化された数字と文字が続く URL 場合があります。サブドメインはサインインで使用されURL、次の例のような会社名が含まれる場合もあります。



### Note

AWS アクセスポータルの特定のサインインをブックマークしてURL、後でアクセスできるようにすることをお勧めします。

AWS アクセスポータルの詳細については、「[アクセスポータルの使用 AWS](#)」を参照してください。

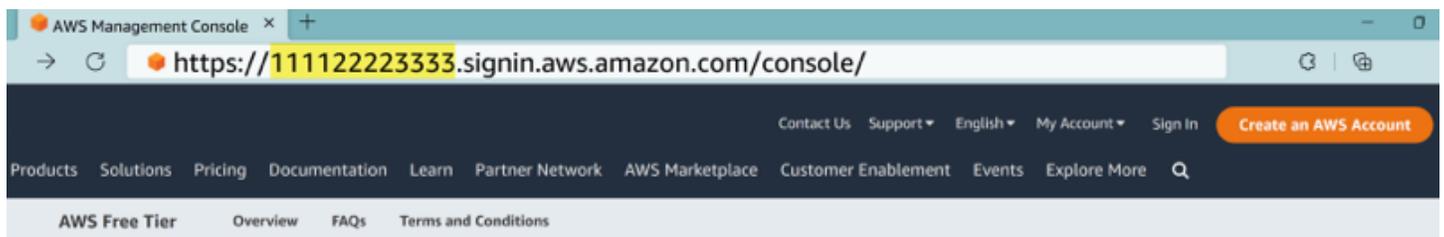
## IAM ユーザーサインイン URL

IAM ユーザーは、特定のIAMユーザーサインイン AWS Management Console を使用してにアクセスできますURL。IAM ユーザーサインインはURL、AWS アカウント ID またはエイリアスと `signin.aws.amazon.com/console`

IAM ユーザーのサインインの例URL :

```
https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/
```

アカウント ID が 111122223333 の場合、サインインは次のURLようになります。



IAM ユーザーサインイン AWS アカウント でへのアクセスに問題がある場合はURL、[「の耐障害性 AWS Identity and Access Management」](#)を参照してください。

## フェデレーテッド ID URL

フェデレーテッド ID URLのサインインは異なります。外部 ID または外部 ID プロバイダー (IdP) は、フェデレーテッド ID URLのサインインを決定します。外部アイデンティティは、Windows アクティブディレクトリ、Login with Amazon、Facebook、または Google のいずれかです。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーテッドアイデンティティの詳細については、「[ウェブ ID フェデレーションについて](#)」を参照してください

## AWS ビルダー ID URL

AWS Builder ID プロファイルURLのはです<https://profile.aws.amazon.com/>。AWS Builder ID を使用する場合、サインインURLはアクセスするサービスによって異なります。例えば、Amazon にサインインするには CodeCatalyst、「」に移動します<https://codecatalyst.aws/login>。

# AWS アカウント 管理者向けのベストプラクティス

新しい を作成したアカウント管理者の場合は AWS アカウント、ユーザーがサインイン時に AWS セキュリティのベストプラクティスに従うことができるように、次の手順を実行することをお勧めします。

1. ルートユーザーとしてサインインして [多要素認証 \(MFA\) を有効にし](#)、[AWS まだ作成していない場合は Identity Center で管理ユーザーを作成します](#)。IAMそれから、[ルートの認証情報を保護し](#)、日常的な作業には使わないようにしましょう。
2. AWS アカウント 管理者としてサインインし、次の ID を設定します。
  - 他の [ユーザー](#)のために [最小特権ユーザー](#)を作成します。
  - [ワークロード用の一時認証情報](#)を設定する。
  - アクセスキーは、[長期的な認証情報を必要とするユースケース](#)のためにのみ作成してください。
3. これらのアイデンティティへのアクセスを許可する権限を追加します。[AWS 管理ポリシーの使用を開始し](#)、[最小特権のアクセス許可](#)に移行できます。
  - [Identity Center \( AWS Single Sign-On の後継\) ユーザー にアクセス許可セット AWS IAMを追加します](#)。
  - ワークロードに使用される [IAMロールにアイデンティティベースのポリシーを追加します](#)。
  - [長期的な認証情報を必要とするユースケースのために、IAMユーザーにアイデンティティベースのポリシーを追加します](#)。
  - IAM ユーザーの詳細については、「[のセキュリティのベストプラクティスIAM](#)」を参照してください。
4. [にサインインする AWS Management Console](#) に関する情報を保存して共有する。この情報は、作成したアイデンティティのタイプによって異なります。
5. アカウントやセキュリティに関する重要な通知を受け取れるように、ルートユーザーのメールアドレスとプライマリアカウントの連絡先電話番号は常に最新の状態にしておいてください。
  - [AWS アカウントのルートユーザーのアカウント名、E メールアドレス、パスワードの変更](#)。
  - [プライマリアカウント連絡先のアクセスまたは更新](#)
6. [のセキュリティのベストプラクティスIAM](#)を確認して、追加の ID とアクセス管理のベストプラクティスについて学びます。

# にサインインする AWS Management Console

メインサインイン URL (<https://console.aws.amazon.com/>) AWS Management Console からに AWS サインインするときは、ルートユーザーまたはユーザー IAM のいずれかのユーザータイプを選択する必要があります。

ルートユーザーは無制限にアカウントにアクセスでき、AWS アカウントの作成者と関連付けられています。次に、ルートユーザーは、ユーザーやなどの他のタイプのIAMユーザーを作成し AWS IAM アイデンティティセンターのユーザー、アクセス認証情報を割り当てます。

IAM ユーザーは、特定のカスタムアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内のアイデンティティです。IAM ユーザーがサインインすると、 のメインサインイン [https://account\\_alias\\_or\\_id.signin.aws.amazon.com/console/](https://account_alias_or_id.signin.aws.amazon.com/console/)の代わりに、AWS アカウント または エイリアスURLを含む AWS サインインを使用できますURL<https://console.aws.amazon.com/>。

自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

チュートリアル

- [ルートユーザー AWS Management Console としてにサインインする](#)
- [IAM ユーザー AWS Management Console としてにサインインする](#)

## ルートユーザー AWS Management Console としてにサインインする

を初めて作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての AWS サービス およびリソースへの完全なアクセス権を持つ1つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。

### Important

日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについて

は、「IAMユーザーガイド」の「[ルートユーザーの認証情報を必要とするタスク](#)」を参照してください。

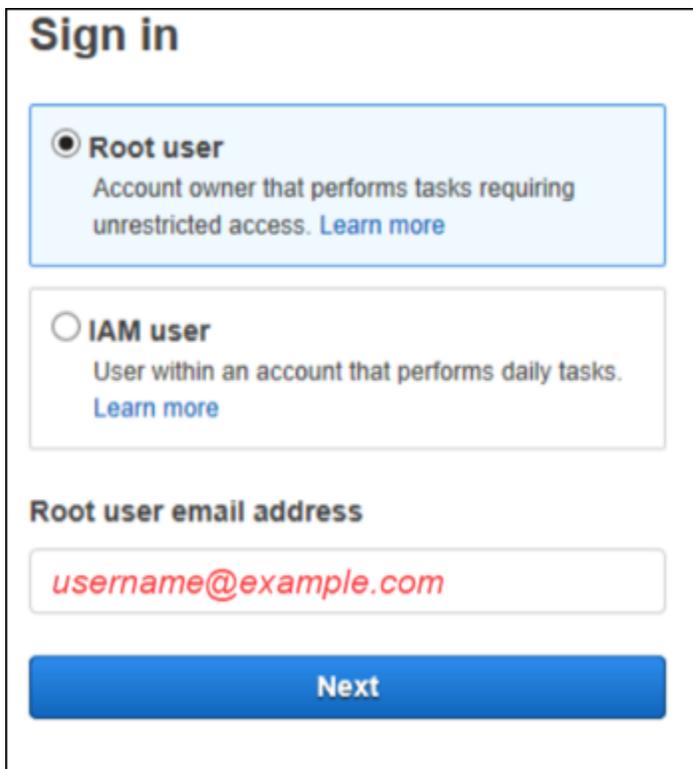
## ルートユーザーとしてサインインする

1. AWS Management Console で を開きます <https://console.aws.amazon.com/>。

### Note

このブラウザを使用して以前にIAMユーザーとしてサインインした場合、代わりにブラウザにIAMユーザーのサインインページが表示されることがあります。メインサインインページに戻るには、[ルートユーザーの E メールでサインイン] を選択します。

2. [ルートユーザー] を選択します。



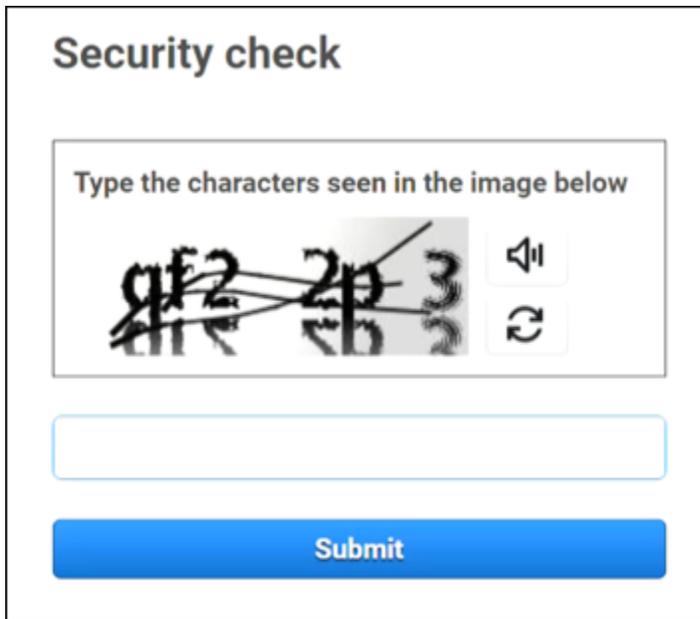
The screenshot shows the AWS 'Sign in' page. At the top, it says 'Sign in'. Below that, there are two radio button options: 'Root user' (which is selected) and 'IAM user'. The 'Root user' option includes the text 'Account owner that performs tasks requiring unrestricted access. Learn more'. The 'IAM user' option includes the text 'User within an account that performs daily tasks. Learn more'. Below these options is a section for 'Root user email address' with a text input field containing 'username@example.com'. At the bottom of the form is a blue button labeled 'Next'.

3. [ルートユーザーの E メールアドレス]に、ルートユーザーに関連付けられている E メールアドレスを入力します。[次へ]を選択します。

4. セキュリティチェックを完了するように求められたら、表示された文字を入力して続行します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞くか、新しい文字セットのセキュリティチェックを更新してみてください。

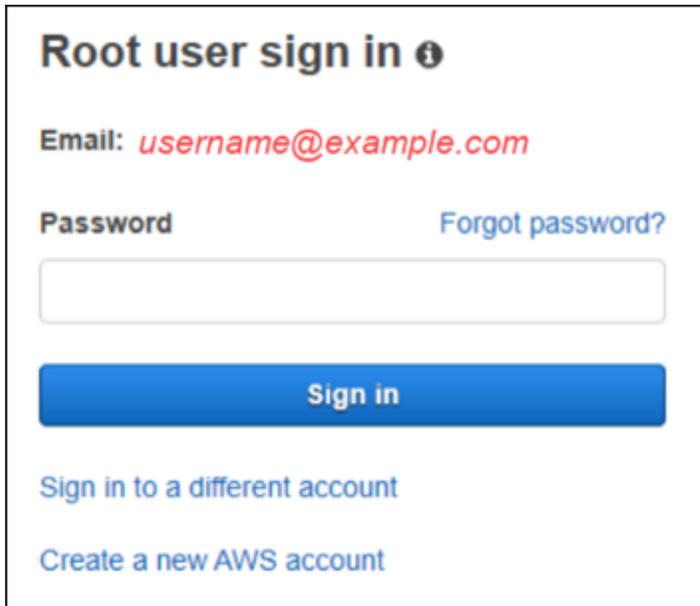
 Tip

表示される (または聞こえる) 英数字を、スペースを入れずに順番に入力します。



The image shows a 'Security check' interface. At the top, it says 'Security check'. Below that, a box contains the instruction 'Type the characters seen in the image below'. The image shows a set of distorted characters: 'g', 'f', '2', '2', '3'. To the right of the image are two icons: a speaker icon and a refresh icon. Below the image is a text input field and a blue 'Submit' button.

5. パスワードを入力します。



The image shows a 'Root user sign in' interface. At the top, it says 'Root user sign in' with an information icon. Below that, it says 'Email: *username@example.com*'. There is a 'Password' label and a 'Forgot password?' link. Below the password label is a text input field. At the bottom, there is a blue 'Sign in' button. Below the button are two links: 'Sign in to a different account' and 'Create a new AWS account'.

## 6. で認証しますMFA。

セキュリティ上の理由から、[ルートユーザー MFA をアクティブ化することを強くお勧めします](#)。MFA がルートユーザーに対して有効になっていない場合、MFAデバイスを有効にするように求められるか、サインイン試行を検証するためのワンタイムパスコード (OTP) チャレンジの完了を求められる場合があります。

## 7. [Sign in] (サインイン) を選択します。AWS Management Console が表示されます。

認証後、はコンソールのホームページ AWS Management Console を開きます。

## 追加情報

AWS アカウント ルートユーザーの詳細については、次のリソースを参照してください。

- ルートユーザーの概要については、「[AWS アカウント ルートユーザー](#)」を参照してください。
- ルートユーザーの使用の詳細については、「[ルートユーザーの使用 AWS アカウント](#)」を参照してください。
- ルートユーザーのパスワードをリセットする step-by-step 方法については、「」を参照してください。[AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった。](#)

## IAM ユーザー AWS Management Console としてにサインインする

[IAM ユーザー](#)は、AWS リソースを操作するアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内で作成された ID です。IAM ユーザーは、アカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを使用してサインインします。IAM ユーザー名は管理者によって設定されます。IAM ユーザー名は、などのフレンドリ名にすることができます。*Zhang*、または などの E メールアドレス *zhang@example.com*。IAM ユーザー名にはスペースを含めることはできませんが、大文字と小文字、数字、記号 を含めることができます+ = , . @ \_ -。

### Tip

IAM ユーザーが多要素認証 (MFA) を有効にしている場合は、認証デバイスにアクセスできる必要があります。詳細については、「[サインインページでMFAデバイスを使用するIAM](#)」を参照してください。

## IAM ユーザーとしてサインインするには

1. AWS Management Console で を開きます <https://console.aws.amazon.com/>。
2. メインサインインページが表示されます。IAM ユーザー を選択し、アカウント ID (12 桁) またはエイリアスを入力し、次へ を選択します。

### Note

現在のブラウザでIAMユーザーとして以前にサインインしたことがある場合、またはアカウントサインイン を使用している場合は、アカウント ID またはエイリアスを入力する必要がない場合がありますURL。

3. IAM ユーザー名とパスワードを入力し、サインイン を選択します。
4. MFA がIAMユーザーに対して有効になっている場合は、それを使用して認証します。詳細については、[「での多要素認証 \(MFA\) AWSの使用」](#)を参照してください。

認証後、 はコンソールのホームページ AWS Management Console を開きます。

### 追加情報

IAM ユーザーに関する詳細情報が必要な場合は、次のリソースを参照してください。

- の概要についてはIAM、[「Identity and Access Management とは」](#)を参照してください。
- AWS アカウント の詳細についてはIDs、[「AWS アカウント ID とそのエイリアス」](#)を参照してください。
- IAM ユーザーパスワードをリセットする step-by-step 方法については、「」を参照してくださいの[IAMユーザーパスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)。

# AWS アクセスポータルにサインインする

IAM Identity Center のユーザーは のメンバーです AWS Organizations。IAM Identity Center のユーザーは、特定のサインイン を使用して AWS アクセスポータルにサインインすることで、複数の AWS アカウント およびビジネスアプリケーションにアクセスできますURL。特定のサインインの詳細については、URL 「」を参照してください[AWS アクセスポータル](#)。

IAM Identity Center のユーザー AWS アカウント として にサインインする前に、以下の必須情報を収集します。

- 企業ユーザー名
- 企業パスワード
- 特定のサインイン URL

## Note

サインイン後、AWS アクセスポータルセッションは 8 時間有効です。8 時間後に再度サインインする必要があります。

## AWS アクセスポータルにサインインするには

1. ブラウザウィンドウで、 などの E メールでURL提供されたサインインに貼り付けます `https://your_subdomain.awsapps.com/start`。次に、エンター キーを押します。
2. 企業認証情報 (ユーザー名とパスワードなど) を使ってサインインします。

## Note

管理者がワンタイムパスワード (OTP) を E メールで送信し、これが初めてサインインする場合は、そのパスワードを入力します。サインインしたら、今後のサインイン用に新しいパスワードを作成する必要があります。

3. 認証コードの入力を求められた場合は、E メールを確認してください。次に、コードをコピーしてサインインページに貼り付けてください。

**Note**

認証コードは通常、Eメールで送信されますが、配信方法が異なる場合があります。Eメールで認証コードを受け取っていない場合は、管理者に認証コードの詳細を確認してください。

4. IAM Identity Center でユーザーに対して が有効になっている場合MFAは、それを使用して認証します。
5. 認証後、ポータルに表示される任意の AWS アカウント およびアプリケーションにアクセスできます。
  - a. にサインインするには、AWS Management Console 「アカウント」 タブを選択し、管理する個々のアカウントを選択します。

ユーザーのロールが表示されます。を開くアカウントのロール名を選択します AWS Management Console。アクセスキーを選択して、コマンドラインまたはプログラムによるアクセスの認証情報を取得します。
  - b. アプリケーション タブを選択すると、使用可能なアプリケーションが表示され、アクセスするアプリケーションのアイコンを選択します。

IAM Identity Center でユーザーとしてサインインすると、セッションと呼ばれる一定期間、リソースにアクセスするための認証情報が提供されます。デフォルトでは、ユーザーは に 8 AWS アカウント 時間サインインできます。IAM Identity Center 管理者は、最短 15 分から最長 90 日までの異なる期間を指定できます。セッションが終了したら、再度サインインできます。

## 追加情報

IAM Identity Center のユーザーに関する詳細情報が必要な場合は、次のリソースを参照してください。

- Identity Center の概要については、IAM IAM [「Identity Center とは」](#) を参照してください。
- AWS アクセスポータルの詳細については、「[アクセスポータルの使用 AWS](#)」を参照してください。
- IAM Identity Center セッションの詳細については、「[ユーザー認証](#)」を参照してください。
- IAM Identity Center のユーザーパスワードをリセットする step-by-step 方法については、「[IAM Identity Center パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)」を参照してください。

# を使用してサインインする AWS Command Line Interface

を使用する予定がある場合は、IAM Identity Center でユーザーを設定することをお勧めします AWS Command Line Interface。アクセスポータルユーザーインターフェイスを使用すると、IAM Identity Center AWS ユーザーは簡単に選択 AWS アカウントし、AWS CLI を使用して一時的なセキュリティ認証情報を取得できます。これらの認証情報を取得する方法の詳細については、「」を参照してください [のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID](#)。IAM Identity Center でユーザーを認証するように AWS CLI を直接設定することもできます。

IAM Identity Center の認証情報 AWS CLI を使用して からサインインするには

- [前提条件](#)を満たしていることを確認してください。
- 初めてサインインする場合は、[aws configure sso](#) ウィザードを使用してプロファイルを設定してください。
- プロファイルを設定したら、次のコマンドを実行して、ターミナルのプロンプトに従います。

```
$ aws sso login --profile my-profile
```

## 追加情報

コマンドラインを使ったサインインについて詳しく知りたい場合は、以下のリソースを参照してください。

- IAM Identity Center 認証情報の使用の詳細については、「[AWS CLI または の IAM Identity Center ユーザー認証情報の取得 AWS SDKs](#)」を参照してください。
- 設定の詳細については、[IAM 「 Identity Center を使用する AWS CLI ように を設定する](#)」を参照してください。
- AWS CLI サインインプロセスの詳細については、「[サインインして認証情報を取得する](#)」を参照してください。

# フェデレーテッドアイデンティティとしてのサインイン

フェデレーテッド ID は、外部 ID を使用して安全な AWS アカウント リソースにアクセスできるユーザーです。外部 ID は、企業 ID ストア (LDAP や Windows Active Directory など) またはサードパーティー (Login in with Amazon、Facebook、Google など) から取得できます。フェデレーテッド ID は、AWS Management Console または AWS アクセスポータルでサインインしません。使用する外部アイデンティティのタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。

管理者は、URLを含むカスタムを作成する必要があります <https://signin.aws.amazon.com/federation>。詳細については、「[AWS Management Console へのカスタムアイデンティティプロカーアクセスの有効化](#)」を参照してください。

## Note

管理者はフェデレーション ID を作成します。フェデレーション ID としてサインインする方法の詳細については、管理者にお問い合わせください。

フェデレーテッドアイデンティティの詳細については、「[ウェブ ID フェデレーションについて](#)」を参照してください

# でサインインする AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、[Amazon](#)、[Amazon Q Developer CodeCatalyst](#)、[AWS トレーニング Certification](#) などの一部のツールやサービスへのアクセスを提供する個人プロフィールです。はユーザーを個人として AWS ビルダー ID 表し、既存の AWS アカウントにある認証情報やデータから独立しています。<https://docs.aws.amazon.com/amazonq/latest/qdeveloper-ug/what-is.html>他の個人プロフィールと同様に、AWS ビルダー ID は、個人的、教育的、キャリア上の目標を達成する過程で、プロフィールにつれて残ります。

は、既に所有 AWS アカウントしている、または作成したいものをすべて AWS ビルダー ID 補完します。は作成する AWS リソースのコンテナ AWS アカウント として機能し、それらのリソースのセキュリティ境界を提供しますが、はユーザーを個人として AWS ビルダー ID 表します。詳細については、「[AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)」を参照してください。

AWS ビルダー ID は無料です。で消費した AWS リソースに対してのみ料金が発生します AWS アカウント。料金の詳細については、「[AWS 料金表](#)」を参照してください。

でサインインするには AWS ビルダー ID

1. アクセスする AWS ツールまたはサービスの[AWS ビルダー ID プロファイル](#)またはサインインページに移動します。例えば、Amazon にアクセスするには CodeCatalyst、「」に移動<https://codecatalyst.aws>し、「サインイン」を選択します。
2. E メールアドレスに、AWS ビルダー IDを作成時に使用した E メールを入力し、[次へ]を選択します。
3. (オプション) このデバイスから今後のサインインしたときに追加の確認を求められないようにするには、[信頼できるデバイスです]の横にあるボックスをチェックします。

## Note

セキュリティのため、ログインブラウザ、場所、デバイスを分析します。このデバイスを信頼するように指示した場合、サインインするたびに多要素認証 (MFA) コードを提供する必要はありません。詳細については、「[信頼されたデバイス](#)」を参照してください。

4. [パスワードの入力] ページで、[パスワード] を入力し、[サインイン] を選択します。
5. [追加認証が必要] ページが表示された場合は、ブラウザの指示に従って必要なコードまたはセキュリティキーを入力してください。

## トピック

- [許可リストの対象となるドメイン AWS ビルダー ID](#)
- [のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID](#)
- [を作成する AWS ビルダー ID](#)
- [AWS を使用する ツールとサービス AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID プロファイルを編集する](#)
- [AWS ビルダー ID パスワードの変更](#)
- [のすべてのアクティブなセッションを削除する AWS ビルダー ID](#)
- [を削除する AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID 多要素認証を管理する \(MFA \)](#)
- [のプライバシーとデータ AWS ビルダー ID](#)
- [AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報](#)

## 許可リストの対象となるドメイン AWS ビルダー ID

お客様またはお客様の組織が IP またはドメインフィルタリングを実装している場合、ドメインの許可リストに登録して を作成および使用する必要がある場合があります AWS ビルダー ID。次のドメインは、 にアクセスしようとしているネットワークでアクセス可能である必要があります AWS ビルダー ID。

- view.awsapps.com/start
- \*.aws.dev
- \*.uis.awsstatic.com
- \*.console.aws.a2z.com
- oidc.\*.amazonaws.com
- \*.sso.amazonaws.com
- \*.sso.\*.amazonaws.com
- \*.sso-portal.\*.amazonaws.com
- \*.signin.aws
- \*.cloudfront.net
- opfcaptcha-prod.s3.amazonaws.com

- `profile.aws.amazon.com`

## のリージョンの可用性 AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID は、次ので使用できます AWS リージョン。を使用するアプリケーションは AWS ビルダー ID、他のリージョンで動作する可能性があります。

名前	コード
米国東部 (バージニア北部)	us-east-1

## を作成する AWS ビルダー ID

は、それを使用する AWS ツールやサービスのいずれかにサインアップ AWS ビルダー ID するとき作成します。AWS ツールまたはサービスのサインアッププロセスの一環として、E メールアドレス、名前、パスワードを使用してサインアップします。

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a~z
  - 大文字 A~Z
  - 数字 (0~9)
  - 英数字以外の文字 (~!@#\$%^&\*\_-+=`|\(){};:;'"<>,.?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

### Note

を使用するツールとサービスは、AWS ビルダー ID 必要に応じてを作成して使用するよう AWS ビルダー ID 指示します。

を作成するには AWS ビルダー ID

1. アクセスする AWS ツールまたはサービスの [AWS ビルダー ID プロファイル](#) またはサインアップページに移動します。例えば、Amazon にアクセスするには CodeCatalyst、「」に移動します <https://codecatalyst.aws>。
2. [AWS ビルダー IDを作成] ページで、[メールアドレス] を入力します。個人用の E メールを使用することをお勧めします。
3. 次へをクリックします。
4. [お名前] を入力し、[次へ] を選択します。
5. E メール確認ページで、E メールアドレスに送信された確認コードを入力します。確認を選択します。E メールプロバイダーによっては、Eメールの受信まで数分かかる場合があります。スパムフォルダと迷惑メールフォルダにコードがないか確認してください。5分 AWS 経ってもからの E メールが表示されない場合は、コードの再送信 を選択します。
6. お客様の E メールを確認した後、パスワードの選択ページで、パスワード とパスワードの確認を入力してください。
7. セキュリティ強化として キャプチャが表示される場合は、表示されている文字を入力してください。
8. [Create AWS ビルダー ID] (作成) を選択します。

## 信頼されたデバイス

サインインページで This is a trusted device(これは信頼できるデバイスです) というオプションを選択すると、そのデバイスのそのウェブブラウザからの今後のすべてのサインインを承認されたものとみなします。つまり、その信頼できるデバイスで MFA コードを提供する必要はありません。ただし、ブラウザ、Cookie、または IP アドレスが変更された場合は、追加の検証のために MFA コードを使用する必要がある場合があります。

## AWS を使用する ツールとサービス AWS ビルダー ID

でサインイン AWS ビルダー ID すると、以下の AWS ツールやサービスにアクセスできます。料金で提供される機能や利点にアクセスするには、が必要で AWS アカウント。

デフォルトでは、を使用して AWS ツールまたはサービスにサインインすると AWS ビルダー ID、セッション期間は 90 日間のセッション期間を持つ Amazon Q Developer を除き、30 日間続きます。セッションが終了したら、再度サインインする必要があります。

## AWS クラウドコミュニティ

[Community.aws](#) は、でアクセスできる AWS ビルダーコミュニティの および プラットフォームです AWS ビルダー ID。これは、教育コンテンツを発見し、個人的な考えやプロジェクトを共有し、他のユーザーの投稿にコメントし、お気に入りのビルダーに従う場所です。

## Amazon CodeCatalyst

[Amazon CodeCatalyst](#) の使用を開始する AWS ビルダー ID ときに を作成し、問題、コードコミット、プルリクエストなどのアクティビティに関連するエイリアスを選択します。チームが次のプロジェクトを成功させるために必要なツール、インフラストラクチャ、環境を備えた Amazon CodeCatalyst スペースに他のユーザーを招待します。新しいプロジェクトをクラウド AWS アカウント にデプロイするには、が必要です。

## AWS Migration Hub

で [AWS Migration Hub](#) (Migration Hub) にアクセスします AWS ビルダー ID。Migration Hub は、既存のサーバーを検出し、移行を計画し、各アプリケーション移行のステータスを追跡する単一の場所を提供します。

## Amazon Q Developer

Amazon Q Developer は、生成 AI を活用した会話型アシスタントで、AWS アプリケーションの理解、構築、拡張、運用に役立ちます。詳細については、「[Amazon Q デベロッパーユーザーガイド](#)」の「Amazon Q デベロッパーとは」を参照してください。

## AWS re:Post

[AWS re:Post](#) は、AWS サービスを使用してイノベーションを高速化し、運用効率を向上させるための専門的な技術ガイダンスを提供します。でサインイン AWS ビルダー ID し、AWS アカウント または クレジットカードなしで re:Post でコミュニティに参加できます。

## AWS スタートアップ

AWS ビルダー ID を使用して [AWS Startups](#) に参加し、学習コンテンツ、ツール、リソース、サポートを使用して でスタートアップを成長させることができます AWS。

## AWS トレーニング および 認定

を使用して、[AWS Skill Builder](#) で AWS クラウド スキルを構築し、エキスパートから AWS 学び、業界で認められている認証情報でクラウドの専門知識を検証できると [AWS トレーニング 認定](#) AWS ビルダー ID にアクセスできます。

## ウェブサイト登録ポータル (WRP )

を[AWS マーケティングウェブサイト](#) の永続的な顧客 ID および登録プロフィール AWS ビルダー ID として使用できます。新しいウェビナーに登録したり、登録または参加したすべてのウェビナーを視聴したりするには、「[マイウェビナー](#)」を参照してください。

## AWS ビルダー ID プロファイルを編集する

プロフィールの情報はいつでも変更できます。の作成に使用した E メールアドレスと名前 AWS ビルダー ID、およびニックネームを編集できます。

[名前] は、他の人と交流するときに、ツールやサービスでどのように呼ばれるかを表します。ニックネームは、密接に協力している AWS、友人、その他の人々にどのように知られたいかを示します。

### Note

を使用するツールとサービスは、AWS ビルダー ID 必要に応じて を作成して使用するよう に AWS ビルダー ID 指示します。

プロフィール情報を編集するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、プロフィールの隣にある **編集** を選択します。
4. プロフィールの編集ページで、名前と ニックネームに必要な変更を加えます。
5. 変更の保存をクリックします。プロフィールの更新が完了したことを知らせる緑色の確認メッセージが表示されます。

連絡先情報を編集するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. 個人情報を選択します。
3. 個人情報ページで、連絡先情報の横にある **編集ボタン** を選択します。
4. 連絡先情報の編集 ページで、メールアドレスを変更します。
5. [メールを確認] を選択します。ダイアログボックスが表示されます。

6. E メールでコードを受け取ったら、[Eメールの確認] ダイアログボックスの [認証コード] にそのコードを入力します。確認を選択します。

## AWS ビルダー ID パスワードの変更

パスワードは以下の条件を満たす必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a～z
  - 大文字 A～Z
  - 数字 (0～9)
  - 英数字以外の文字 (~!@#\$\$%^&\* \_-+=`|()\{};:;'"<>, .?/)
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。

### Note

を使用するツールとサービスは、AWS ビルダー ID 必要に応じて を作成して使用するよう に AWS ビルダー ID 指示します。

AWS ビルダー ID パスワードを変更するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、パスワードの変更を選択します。これにより、新しいページに移動します。
4. パスワードの再入力ページのパスワードに、現在のパスワードを入力します。次に [サインイン] を選択します。
5. [パスワードの変更] ページの [新しいパスワード] で、使用したい新しいパスワードを入力します。次に、[パスワードの確認] に、使用したい新しいパスワードを再入力します。
6. その後、[パスワードの変更] をクリックします。AWS ビルダー ID プロフィールにリダイレクトされます。

## のすべてのアクティブなセッションを削除する AWS ビルダー ID

[ログイン中のデバイス] には、現在ログインしているすべてのデバイスを表示できます。デバイスがわからない場合は、セキュリティ上のベストプラクティスとして、まず [パスワードを変更してから](#)、すべてのデバイスからサインアウトしてください。AWS ビルダー ID ビルダー ID の [セキュリティ] ページでは、アクティブなセッションをすべて削除することで、すべてのデバイスからサインアウトできます。

すべてのアクティブなセッションを削除するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティ ページで、すべてのアクティブなセッションを削除 を選択します。
4. [すべてのセッションを削除] ダイアログボックスに全て削除と入力します。すべてのセッションを削除することで、さまざまなブラウザを含め AWS ビルダー ID、 を使用してサインインしたすべてのデバイスからサインアウトできます。次に [すべてのセッションを削除] を選択します。

## を削除する AWS ビルダー ID

### Warning

を削除すると AWS ビルダー ID、以前にサインアップした AWS ツールやサービスにアクセスできなくなります。

を削除するには AWS ビルダー ID

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. プライバシーとデータを選択します。
3. [プライバシーとデータ] ページで、[削除 AWS ビルダー ID] の下に [削除 AWS ビルダー ID] を選択します。
4. 各免責事項の横にあるチェックボックスを選択し、続行する準備ができていることを確認します。

**⚠ Important**

を削除する AWS ビルダー ID と、に関連付けられているすべてのデータ AWS ビルダー ID が完全に削除され、アプリケーションからデータにアクセスしたり復旧したりできなくなります。

5. [削除 AWS ビルダー ID] を選択します。

## AWS ビルダー ID 多要素認証を管理する (MFA )

多要素認証 (MFA) は、セキュリティを強化するためのシンプルで効果的なメカニズムです。1 つ目の要因であるパスワードは、ユーザーが記憶する秘密であり、知識要因とも呼ばれます。その他の要因としては、所有要因 (セキュリティキーなど、ユーザーが持っているもの) や継承要因 (生体認証スキャンなど、ユーザー自身のもの) があります。にレイヤーを追加する MFA ように を設定することを強くお勧めします AWS ビルダー ID。

複数の MFA デバイスを登録することをお勧めします。例えば、組み込みの認証アプリを登録し、物理的に安全な場所に保管するセキュリティキーも登録することができます。組み込みの認証ソフトを使用できない場合は、登録済みのセキュリティキーを使用できます。認証アプリケーションについては、それらのアプリでクラウドバックアップまたは同期機能を有効にすることもできます。これにより、MFA デバイスを紛失したり破損したりした場合に、プロファイルへのアクセスが失われるのを防ぐことができます。

**i Note**

登録済み MFA デバイスを定期的を確認し、最新かつ機能していることを確認することをお勧めします。また、これらのデバイスは、使用しないときは物理的に安全な場所に保管してください。登録されているすべての MFA デバイスにアクセスできなくなった場合、 を復元することはできません AWS ビルダー ID。

## で使用できる MFA タイプ AWS ビルダー ID

AWS ビルダー ID では、次の多要素認証 (MFA) デバイスタイプがサポートされています。

## FIDO2 認証

[FIDO2](#) は、CTAP2 および [を含む標準であり WebAuthn](#)、パブリックキー暗号化に基づいています。FIDO 認証情報は、などの認証情報が作成されたウェブサイトに固有のため、フィッシングに耐性があります AWS。

AWS は、FIDO 認証ツールの最も一般的なフォームファクターとして、組み込みの認証ツールとセキュリティキーの 2 つをサポートしています。最も一般的な FIDO タイプの認証の詳細については、以下を参照してください。

### トピック

- [組み込みの認証機能](#)
- [セキュリティキー](#)
- [パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証者](#)

### 組み込みの認証機能

一部のデバイスには、の TouchID MacBook や Windows Hello 互換カメラなどの認証機能が組み込まれています。デバイスが [などの FIDO プロトコルと互換性 WebAuthn](#)がある場合は、フィンガープリントまたは顔を 2 番目の要素として使用できます。詳細については、[FIDO「認証」](#)を参照してください。

### セキュリティキー

FIDO2 互換の外部 USB、BLE、または NFC に接続されたセキュリティキーを購入できます。デバイスの入力を求められたら MFA、キーの sensor. YubiKey または Feitian が互換性のあるデバイスを作成します。互換性のあるすべてのセキュリティキーのリストについては、[FIDO「認定済み製品」](#)を参照してください。

### パスワードマネージャー、パスキープロバイダー、その他の FIDO 認証者

複数のサードパーティープロバイダーが、パスワードマネージャー、FIDO モード付きスマートカード、その他のフォームファクターの機能として、モバイルアプリケーションでの FIDO 認証をサポートしています。これらの FIDO 互換デバイスは IAM Identity Center と連携できますが、[でこのオプションを有効にする前に](#)、FIDO 認証機能を自分でテストすることをお勧めします MFA。

**Note**

一部のFIDO認証者は、パスキーと呼ばれる検出可能なFIDO認証情報を作成できます。パスキーは、パスキーを作成したデバイスにバインドされている場合もあれば、同期可能でクラウドにバックアップされている場合もあります。例えば、サポートされている Macbook で Apple Touch ID を使用してパスキーを登録し、サインイン時の画面上のプロンプトに従って、Google Chrome でパスキーをサインイン iCloud した Windows ラップトップからサイトにログインできます。どのデバイスが同期可能なパスキーとオペレーティングシステムとブラウザ間の現在のパスキー相互運用性をサポートしているかの詳細については、「[FIDO Alliance And World Wide Web Consortium \(W3C\)](https://passkeys.dev) が管理するリソースである [passkeys.dev](https://passkeys.dev) での [デバイスサポート](#)」を参照してください。

## 認証アプリケーション

認証アプリケーションは、ワンタイムパスワード (OTP) ベースのサードパーティー認証アプリケーションです。モバイルデバイスまたはタブレットにインストールされた認証アプリケーションを、認可されたMFAデバイスとして使用できます。サードパーティーの認証アプリケーションは、6 RFC 桁の認証コードを生成できる標準ベースのタイムベースのワンタイムパスワード (TOTP) アルゴリズムである 6238 に準拠している必要があります。

の入力を求められたらMFA、表示された入力ボックスに認証アプリケーションから有効なコードを入力する必要があります。ユーザーに割り当てられた各MFAデバイスは一意である必要があります。1人のユーザーに対して2つの認証アプリを登録することができます。

以下の有名なサードパーティーの認証アプリケーションから選択できます。ただし、TOTP準拠のアプリケーションは で動作します AWS ビルダー ID MFA。

オペレーティングシステム	テスト済みの認証アプリ
Android	<a href="#">1Password</a> 、 <a href="#">Authy</a> 、 <a href="#">Duo Mobile</a> 、 <a href="#">Microsoft Authenticator</a> 、 <a href="#">Google Authenticator</a>
iOS	<a href="#">1Password</a> 、 <a href="#">Authy</a> 、 <a href="#">Duo Mobile</a> 、 <a href="#">Microsoft Authenticator</a> 、 <a href="#">Google Authenticator</a>

## デバイスを登録する AWS ビルダー ID MFA

### Note

にサインアップしMFA、サインアウトしてから同じデバイスでサインインすると、信頼できるデバイスで MFAの入力を求められない場合があります。

認証アプリケーションを使用してMFAデバイスを登録するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティページで、デバイスの登録を選択します。
4. デバイスの登録MFAページで、認証アプリ を選択します。
5. AWS ビルダー ID は、QR コードグラフィックなどの設定情報を操作して表示します。図は、QR コードに対応していない認証アプリケーションでの手動入力に利用できる「シークレット設定キー」を示しています。
6. 認証アプリケーションを開きます。アプリのリストについては、「[認証アプリケーション](#)」を参照してください。

認証アプリケーションが複数のMFAデバイスまたはアカウントをサポートしている場合は、新しいMFAデバイスまたはアカウントを作成するオプションを選択します。

7. MFA アプリが QR コードをサポートしているかどうかを確認し、認証アプリの設定ページで次のいずれかを実行します。
  1. QR コードの表示を選択し、アプリケーションを使用して QR コードをスキャンします。例えば、カメラアイコンまたは スキャンコード に似たオプションを選択します。次に、デバイスのカメラでコードをスキャンします。
  2. シークレットキーを表示 を選択し、そのシークレットキーをMFAアプリケーションに入力します。

完了すると、認証アプリケーションがワンタイムパスワードを生成して表示します。

8. 認証システムコードボックスに、現在認証アプリケーションに表示されているワンタイムパスワードを入力します。[Assign (割り当てる)MFA] を選択します。

**⚠ Important**

コードを生成したら、即時にリクエストを送信します。コードを生成し、リクエストの送信に時間がかかりすぎると、MFAデバイスは正常に関連付けられませんが AWS ビルダー ID、MFAデバイスは同期しません。これは、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) が短時間で期限切れになるためです。その場合は、デバイスの再同期ができます。詳細については、「[認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとすると、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます](#)」を参照してください。

9. でデバイスにわかりやすい名前を付けるには AWS ビルダー ID、名前の変更 を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで、MFAデバイスは で使用できる状態になりました AWS ビルダー ID。

## セキュリティキーをデバイスとして登録する AWS ビルダー ID MFA

セキュリティキーを使用してMFAデバイスを登録するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. セキュリティページで、デバイスの登録を選択します。
4. MFA デバイスの登録ページで、セキュリティキー を選択します。
5. セキュリティキーが有効になっていることを確認します。別の物理セキュリティキーを使用する場合は、それをコンピューターに接続します。
6. 画面上の指示に従います。操作性は、オペレーティングシステムとブラウザによって異なります。
7. でデバイスにわかりやすい名前を付けるには AWS ビルダー ID、名前の変更 を選択します。この名前は、このデバイスを登録した他のデバイスと区別するのに役立ちます。

これで、MFAデバイスは で使用できる状態になりました AWS ビルダー ID。

## デバイスの名前 AWS ビルダー ID MFAを変更する

MFA デバイスの名前を変更するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。ページに到達すると、名前の変更がグレーアウトされていることがわかります。
3. 変更するMFAデバイスを選択します。これにより、名前の変更を選択できます。そしたら、ダイアログボックスが表示されます。
4. 開いたプロンプトで、MFAデバイス名に新しい名前を入力し、名前の変更を選択します。名前が変更されたデバイスは、多要素認証 (MFA) デバイス の下に表示されます。

## MFA デバイスを削除する

2つ以上のアクティブなMFAデバイスを保持することをお勧めします。デバイスを削除する前に、「」を参照して代替MFAデバイスを登録 [デバイスを登録する AWS ビルダー ID MFA](#) してください。の多要素認証を無効にするには AWS ビルダー ID、プロファイルから登録されているすべてのMFA デバイスを削除します。

MFA デバイスを削除するには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. セキュリティを選択します。
3. 変更するMFAデバイスを選択し、「削除」を選択します。
4. MFA デバイスの削除 モーダルで、指示に従ってデバイスを削除します。
5. [削除] を選択します。

削除されたデバイスは、多要素認証 (MFA) デバイス の下に表示されなくなります。

## のプライバシーとデータ AWS ビルダー ID

「[AWS プライバシー通知](#)」には、私たちがお客様の個人データをどのように扱うかが概説されています。AWS ビルダー ID プロファイルを削除する方法については、「」を参照してください [を削除する AWS ビルダー ID](#)。

## AWS ビルダー ID データをリクエストする

私たちはお客様のデータとプライバシーについて透明性を保ちます。AWS ビルダー ID ビルダー ID が保存するお客様に関するデータをリクエストして表示できます。

個人データをリクエストするには

1. で AWS ビルダー ID プロファイルにサインインします <https://profile.aws.amazon.com>。
2. プライバシーとデータを選択します。
3. [プライバシーとデータ]ページの [個人 AWS ビルダー ID データ] で、[データをリクエストする] を選択します。
4. リクエストが受領され 30 日以内に処理が完了されることを知らせる緑色の確認メッセージが ページ上部に表示されます。
5. リクエストが処理されたというメールが当社から届いたら、AWS ビルダー ID プロファイルのプライバシーとデータページに戻ります。新しく利用可能になったボタンを選択します。データを含むZIPアーカイブをダウンロードします。

## AWS ビルダー ID およびその他の AWS 認証情報

AWS ビルダー ID は、AWS アカウント またはサインイン認証情報とは別のものです。AWS ビルダー ID とのルートユーザー E メールに同じ E メールを使用できます AWS アカウント。

AWS ビルダー ID :

- を使用するツールやサービスにアクセスできます AWS ビルダー ID。
- AWS アカウント またはアプリケーションで指定したポリシーや設定など、既存のセキュリティコントロールには影響しません。
- 既存のルート、IAM Identity Center、IAM ユーザー、認証情報、またはアカウントは置き換えられません。
- AWS Management Console、AWS CLI AWS SDKs、または AWS Toolkit にアクセスするための認証情報を取得 AWS IAM できません。

AWS アカウント は、連絡先情報と支払い情報を含むリソースコンテナです。S3、EC2 Lambda などの課金対象および従量制 AWS サービスを運用するセキュリティ境界を確立します。アカウント所有者は、AWS アカウント のにサインインできます AWS Management Console。詳細については、「[AWS Management Consoleへのサインイン](#)」を参照してください。

## が既存の IAM Identity Center ID とどのように AWS ビルダー ID 関連しているか

アイデンティティを所有する個人は、AWS ビルダー ID を管理する。学校や職場など、他の組織で持っている他のアイデンティティとは関連がありません。IAM Identity Center のワークフォース ID を使用して自分の仕事を表すことができ、AWS ビルダー ID を使用してプライベートを表すことができます。これらのアイデンティティは独立して動作します。

Identity Center (AWS Single Sign-On の後継) の AWS IAM ユーザーは、企業の IT 管理者またはクラウド管理者、または Okta、Ping、Azure などの組織の ID プロバイダーの管理者によって管理されます。IAM Identity Center のユーザーは、複数のアカウントのリソースにアクセスできません AWS Organizations。

## 複数の AWS ビルダー ID プロファイル

各 ID AWS ビルダー ID が一意の E メールアドレスを使用している限り、複数の を作成できます。ただし、複数の を使用すると、どの目的でどの を使用した AWS ビルダー ID かを思い出すことが難しくなる AWS ビルダー ID 可能性があります。可能な場合は、AWS ツールやサービスのすべての アクティビティに 1 AWS ビルダー ID つの を使用することをお勧めします。

# からサインアウトする AWS

からサインアウトする方法 AWS は、ユーザーの種類 AWS アカウント によって異なります。アカウントのルートユーザー、IAM ユーザー、IAM Identity Center のユーザー、フェデレーテッド ID、または AWS Builder ID ユーザーを指定できます。自分がどのようなユーザーか明確でない場合は、「[ユーザータイプを決定する](#)」を参照してください。

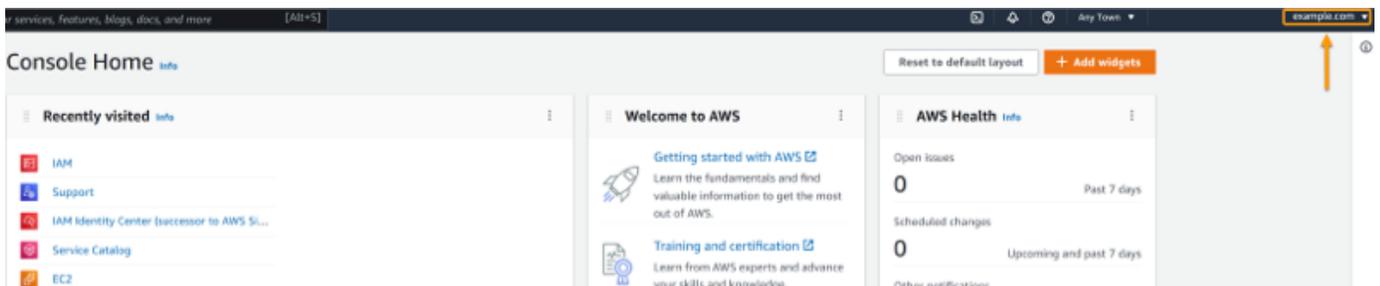
## トピック

- [からサインアウトする AWS Management Console](#)
- [AWS アクセスポータルからのサインアウト](#)
- [Builder ID AWS からサインアウトする](#)

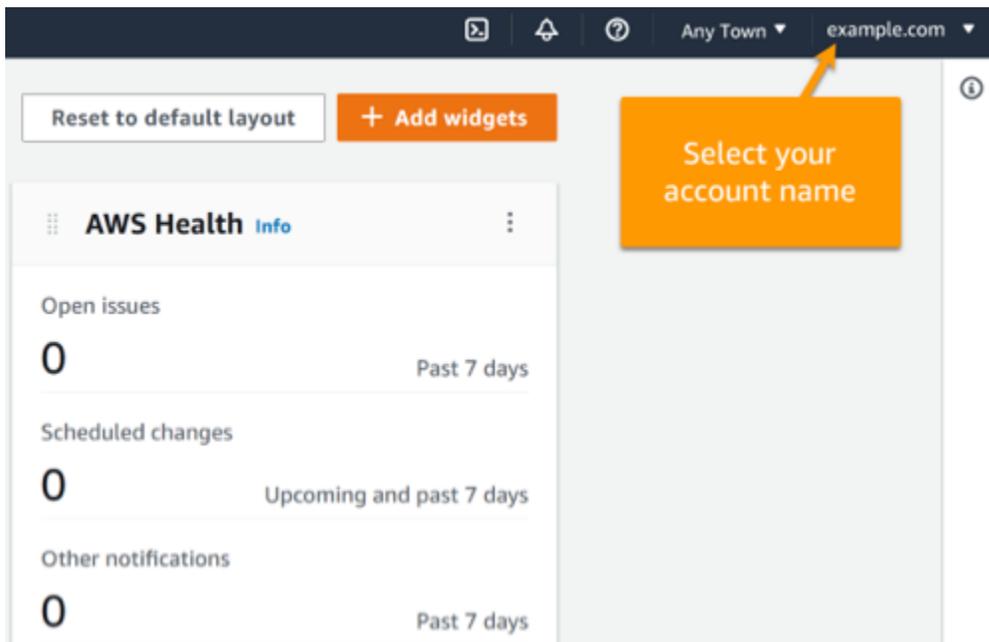
# からサインアウトする AWS Management Console

からサインアウトするには AWS Management Console

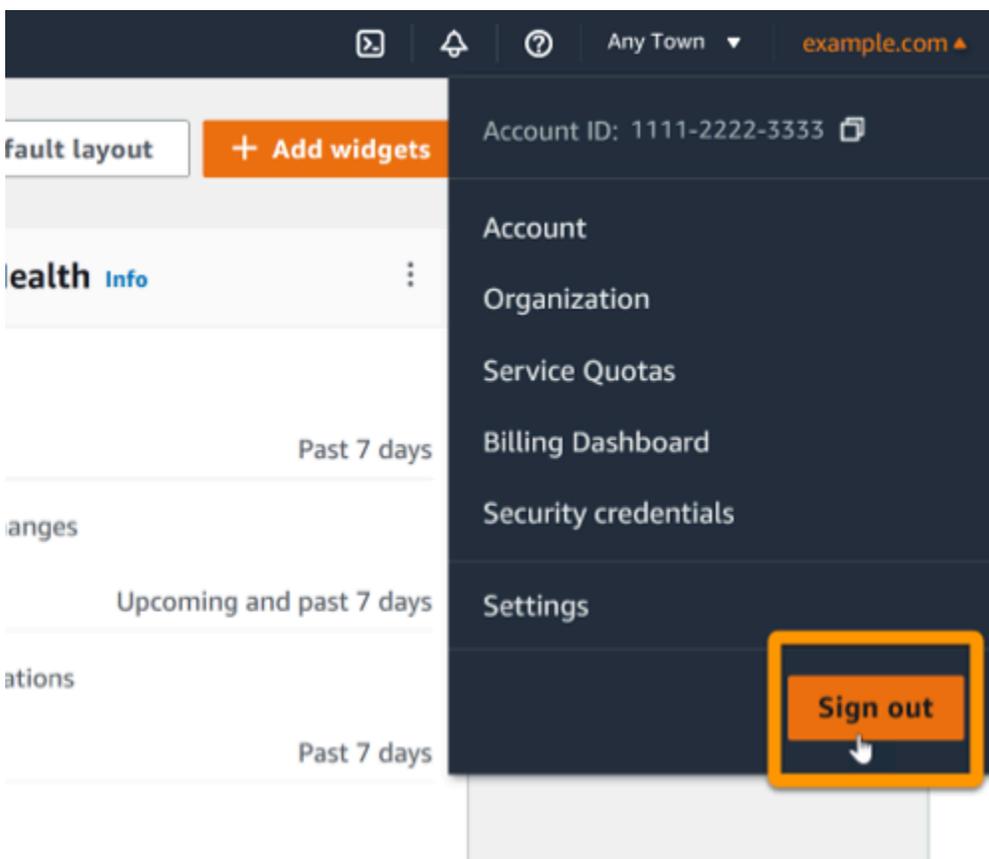
1. にサインインすると AWS Management Console、次の図に示すようなページが表示されます。アカウント名またはIAMユーザー名が右上隅に表示されます。



2. 右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択します。



3. 次の図に示すように、[サインアウト] を選択します。

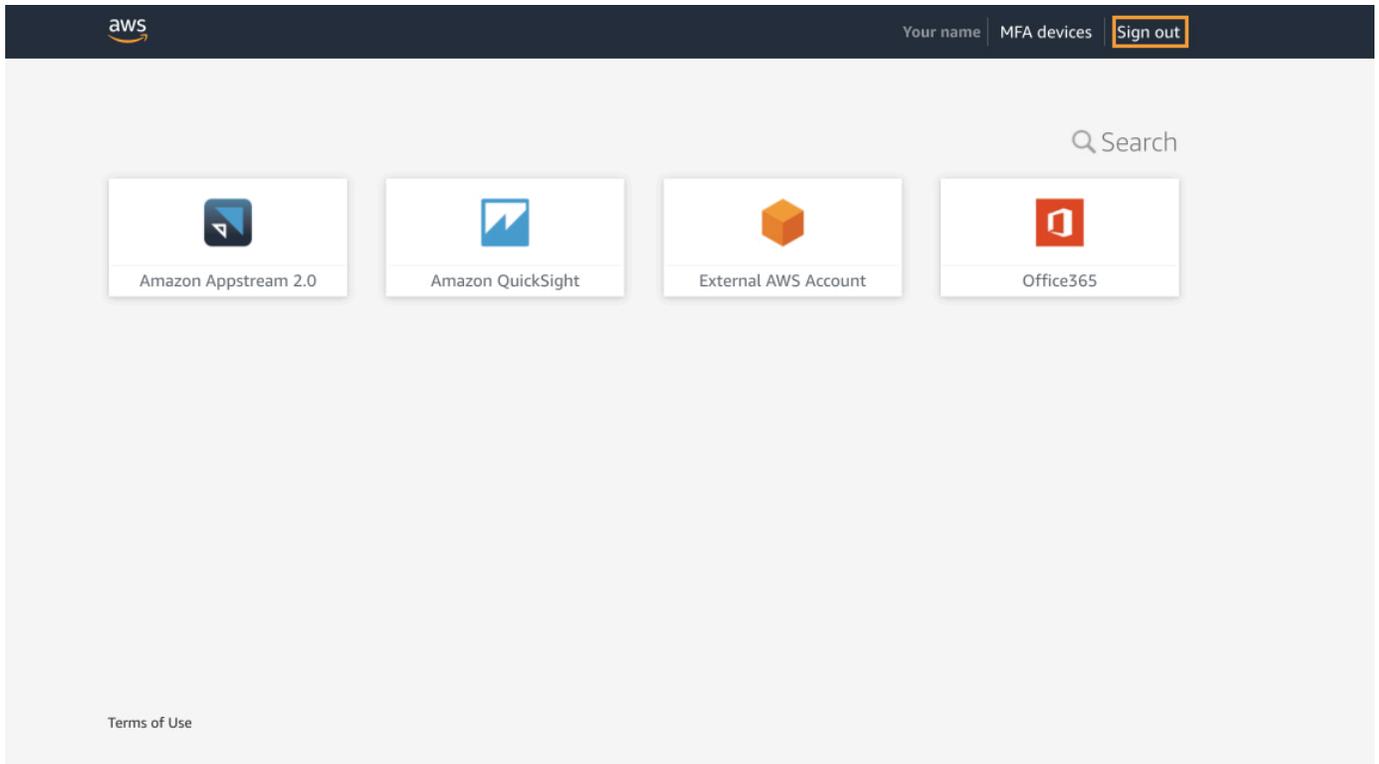


4. AWS Management Console ウェブページに戻ります。

# AWS アクセスポータルからのサインアウト

AWS アクセスポータルからサインアウトするには

1. アクセスポータルの右上にある [サインアウト] を選択します。



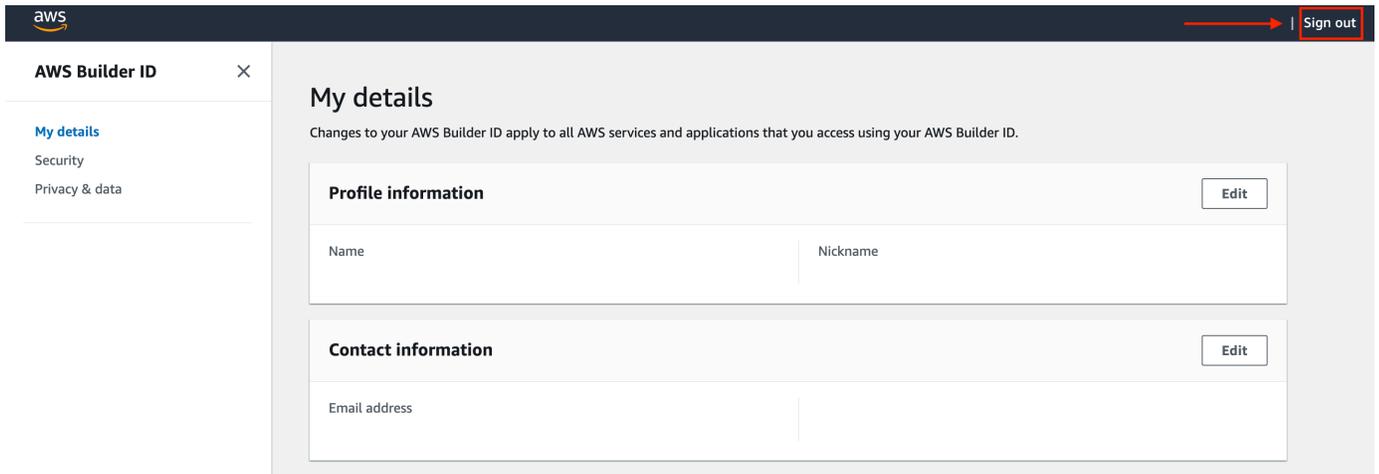
2. 正常にサインアウトすると、AWS アクセスポータルのサインインページが表示されます。

## Builder ID AWS からサインアウトする

AWS Builder ID を使用してアクセスした AWS サービスからサインアウトするには、サービスからサインアウトする必要があります。AWS Builder ID プロファイルからサインアウトする場合は、次の手順を参照してください。

Builder ID AWS プロファイルからサインアウトするには

1. で AWS Builder ID プロファイルにサインインすると <https://profile.aws.amazon.com/>、詳細 に到着します。
2. AWS Builder ID プロファイルページの右上で、「サインアウト」を選択します。



The screenshot displays the AWS Builder ID user interface. At the top left is the AWS logo. In the top right corner, there is a 'Sign out' button with a red arrow pointing to it. On the left side, there is a navigation menu with 'AWS Builder ID' at the top, followed by 'My details' (highlighted in blue), 'Security', and 'Privacy & data'. The main content area is titled 'My details' and includes a sub-header: 'Changes to your AWS Builder ID apply to all AWS services and applications that you access using your AWS Builder ID.' Below this, there are two sections: 'Profile information' and 'Contact information'. Each section has an 'Edit' button. The 'Profile information' section contains input fields for 'Name' and 'Nickname'. The 'Contact information' section contains an input field for 'Email address'.

3. AWS Builder ID プロファイルが表示されなくなったらサインアウトします。

# サインインに関する問題 AWS アカウント のトラブルシューティング

サインインやその他の AWS アカウント 問題のトラブルシューティングには、こちらの情報を参考にしてください。にサインインする step-by-step 手順については、AWS アカウント「」を参照してください [にサインインする AWS Management Console](#)。

サインインの問題に対処するのに役立つトラブルシューティングトピックがない場合は、「」というフォームに記入 AWS Support してケースを作成できます。私は のお客様であり、請求またはアカウントサポートを探しています。 [AWS](#) セキュリティのベストプラクティスとして、AWS Support では、サインインしているアカウント AWS アカウント 以外の の詳細について説明することはできません。AWS また、何らかの理由でアカウントに関連付けられた認証情報を変更することもできません。

## Note

AWS Support は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を発行しません。

サインインに関する問題のトラブルシューティングの詳細については、「 [へのサインインまたはへのアクセスに問題がある場合の対処方法](#)」を参照してください [AWS アカウント](#)。Amazon.com へのサインインに問題がある場合は、「 [Amazon カスタマーサービス](#)」を参照してください。

## トピック

- [AWS Management Console 認証情報が機能しない](#)
- [AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない](#)
- [MFA デバイスが紛失したか、動作が停止した](#)
- [AWS Management Console サインインページにアクセスできない](#)
- [AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法](#)
- [アカウント検証コードが必要](#)
- [AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった](#)
- [のIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)
- [のフェデレーション ID パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)
- [既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しいを作成できない](#)

- [利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります](#)
- [サインインの問題 AWS Support については、に連絡する必要があります](#)
- [請求に関する問題 AWS Billing については、に連絡する必要があります](#)
- [小売注文について質問があります](#)
- [の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント](#)
- [AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない](#)
- [の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)
- [IAM Identity Center コンソールにサインインしようとする、「ユーザーではありません。ユーザーです」というエラーが表示されます。](#)

## AWS Management Console 認証情報が機能しない

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。別のページでログインしてみてください。

- ルートユーザーのサインインページ – を作成または所有 AWS アカウント していて、ルートユーザーの認証情報を必要とするタスクを実行している場合は、にアカウントの E メールアドレスを入力します [AWS Management Console](#)。ルートユーザーにアクセスする方法については、[ルートユーザーとしてサインインする](#)を参照します。パスワードを忘れた場合、リセットすることはできません。詳細については、「[AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった](#)」を参照してください。ルートユーザーのメールアドレスを忘れてしまった場合は、AWSからのメールが届いていないか確認してください。
- IAM ユーザーサインインページ – ユーザーまたは他のユーザーが 内でIAMユーザーを作成した場合 AWS アカウント、サインインするにはその AWS アカウント ID またはエイリアスを知る必要があります。 [AWS Management Console](#) にアカウント ID またはエイリアス、ユーザー名、パスワードを入力します。IAM ユーザーサインインページにアクセスする方法については、「」を参照してください [IAM ユーザーとしてサインインするには](#)。IAM ユーザーパスワードを忘れた場合は、[のIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました AWS アカウント](#)「」でIAMユーザーパスワードのリセットに関する情報を確認できます。アカウント番号を忘れた場合は、E メール、ブラウザのお気に入り、またはブラウザ履歴で、URLを含む を検索します `signin.aws.amazon.com/`。アカウント ID またはエイリアスは、の "account=" テキストに従います URL。アカウント ID またはエイリアスが見つからない場合は、管理者にお問い合わせください。この情報 AWS Support の復旧はサポートされていません。アカウントIDまたはエイリアスは、サインインするまで表示されません。

## AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない

を作成するときは AWS アカウント、E メールアドレスとパスワードを指定します。これらは、AWS アカウントのルートユーザーの認証情報です。に関連付けられている E メールアドレスが不明な場合は AWS アカウント、@signin.aws または @verify.signin.aws で終わる、を開くために使用された可能性のある組織の E メールアドレスへの保存された通信を探します AWS アカウント。チーム、組織、家族の他のメンバーに聞いてみてください。知り合いがアカウントを作成した場合は、その人がアクセスできるように手伝ってください。

E メールアドレスがわかっても、E メールにアクセスできなくなった場合は、まず次のいずれかのオプションを使用して、E メールへのアクセスを回復します。

- E メールアドレスのドメインを所有している場合は、削除した E メールアドレスを復元できます。または、E メールアカウントにキャッチオールを設定することもできます。「キャッチオール」は、メールサーバーに存在しなくなった E メールアドレスに送信されたすべてのメッセージをキャッチし、別のメールアドレスにリダイレクトします。
- アカウントの E メールアドレスが企業 E メールシステムの一部である場合は、IT システム管理者に連絡することをお勧めします。管理者は、E メールへのアクセス許可の回復を支援できる可能性があります。

それでもにサインインできない場合は AWS アカウント、に連絡して代替のサポートオプションを見つけることができます [AWS Support](#)。

## MFA デバイスが紛失したか、動作が停止した

AWS アカウント ルートユーザー MFA デバイスが紛失、破損、または機能しない場合は、アカウントへのアクセスを回復できます。IAM ユーザーは、管理者に連絡してデバイスを非アクティブ化する必要があります。これらのユーザーは、管理者の支援なしに MFA デバイスを復元することはできません。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

MFA デバイスを復旧する step-by-step 手順については、[MFA 「デバイスが紛失した場合や動作しなくなった場合の対処」](#)を参照してください。

MFA デバイスの電話番号を更新する step-by-step 方法については、[「電話番号を更新して紛失した MFA デバイスをリセットする方法を教えてください」](#)を参照してください。

MFA デバイスをアクティブ化する step-by-step 手順については、[「でのユーザーのMFAデバイスの有効化 AWS」](#)を参照してください。

MFA デバイスを復元できない場合は、[お問い合わせ](#)してください[AWS Support](#)。

#### Note

IAM ユーザーは、MFAデバイスに関するサポートを管理者に連絡する必要があります。  
AWS Support はMFA、デバイスの問題でIAMユーザーをサポートできません。

## AWS Management Console サインインページにアクセスできない

サインインページが表示されない場合は、ドメインがファイアウォールによってブロックされている可能性があります。ネットワーク管理者に連絡して、ユーザーのタイプとサインイン方法に応じて、ウェブコンテンツフィルタリングソリューションの許可リストに次のドメインまたはURLエンドポイントを追加します。

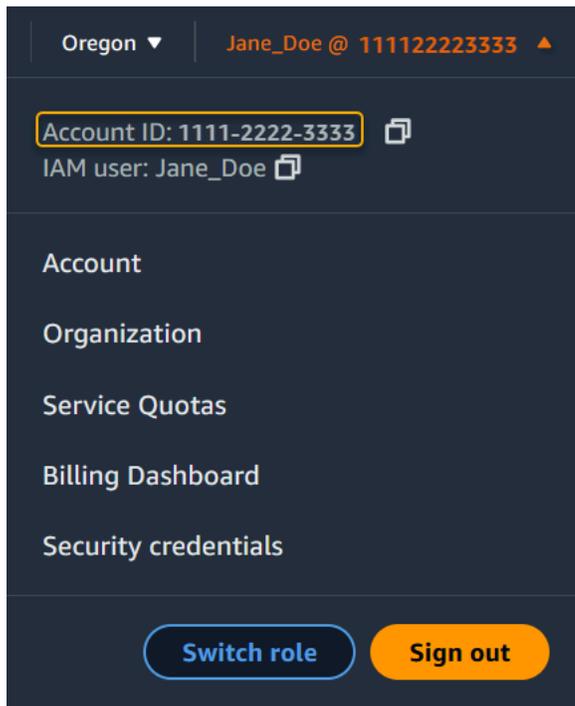
ルートユーザーとIAMユーザー	*.signin.aws.amazon.com
Amazon.com アカウントへのサインイン	www.amazon.com
IAM Identity Center ユーザーとファーストパーティーアプリケーションのサインイン	<ul style="list-style-type: none"><li>*.awsapps.com (<a href="http://awsapps.com/">http://awsapps.com/</a>)</li><li>*.signin.aws</li></ul>

## AWS アカウント ID またはエイリアスを確認する方法

IAM ユーザーがサインインしていない場合は、管理者に AWS アカウント ID またはエイリアスを依頼してください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

にアクセスできるIAMユーザーの場合 AWS Management Console、アカウント ID はサインイン にありますURL。管理者からの E メールをチェックして、サインイン を確認しますURL。アカウント ID は、サインイン の最初の 12 桁ですURL。例えば、次の URL、では<https://111122223333.signin.aws.amazon.com/console>、AWS アカウント ID は111122223333 です。

にサインインすると AWS Management Console、リージョンの横にあるナビゲーションバーにアカウント情報が表示されます。例えば、次のスクリーンショットでは、IAMユーザーの Jane Doe AWS アカウントのは 1111-2222-3333 です。



ユーザータイプ AWS アカウント に応じて を検索する方法の詳細については、次の表を参照してください。

#### ユーザータイプと AWS アカウント IDs

ユーザーのタイプ	手順		
ルートユーザー	右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択した後、[セキュリティ認証情報] を選択します。アカウント番号は [アカウント識別子] の下に表示されます。		
IAM ユーザー	右上のナビゲーションバーでユーザー名を選択した後、[セ		

ユーザーのタイプ	手順		
	キュリティ認証情報] を選択します。アカウント番号は [アカウント詳細] の下に表示されます。		
役割を引き受けた	右上のナビゲーションバーで、[サポート]、[サポートセンター] の順に選択します。現在サインインしている 12 桁のアカウント番号 (ID) は、サポートセンターナビゲーションペインに表示されます。		

AWS アカウント ID とエイリアスとその検索方法の詳細については、[AWS アカウント「ID とそのエイリアス」](#)を参照してください。

## アカウント検証コードが必要

アカウントの E メールアドレスとパスワードを指定した場合、では 1 回限りの検証コードの入力が必要になる AWS ことがあります。検証コードを取得するには、に関連付けられている E メールに Amazon Web Services からのメッセージ AWS アカウント がないか確認してください。E メールアドレスは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わります。メッセージに記載されている手順に従います。アカウントにメッセージが表示されない場合、スパムや迷惑メールフォルダを確認してください。E メールへのアクセス許可がない場合、「[AWS アカウントアカウントの E メールにアクセスできない](#)」を参照してください。

## AWS アカウントのルートユーザーパスワードを忘れてしまった

ルートユーザーで、のパスワードを紛失または忘れた場合は AWS アカウント、の「パスワードを忘れた場合」リンクを選択してパスワードをリセットできます AWS Management Console。AWS

アカウントの E メールアドレスを把握し、E メールアカウントにアクセスできる必要があります。パスワード復旧手順中に、パスワードをリセットするためのリンクがメールで送信されます。リンクは、 の作成に使用した E メールアドレスに送信されます AWS アカウント。

AWS Organizations を使用して作成したアカウントのパスワードをリセットするには、[「ルートユーザーとしてのメンバーアカウントへのアクセス」](#)を参照してください。

ルートユーザーパスワードをリセットするには

1. AWS E メールアドレスを使用して、ルートユーザー として [AWS マネジメントコンソール](#)へのサインインを開始します。[次へ] を選択します。

**Sign in**

**Root user**  
Account owner that performs tasks requiring unrestricted access. [Learn more](#)

**IAM user**  
User within an account that performs daily tasks. [Learn more](#)

**Root user email address**

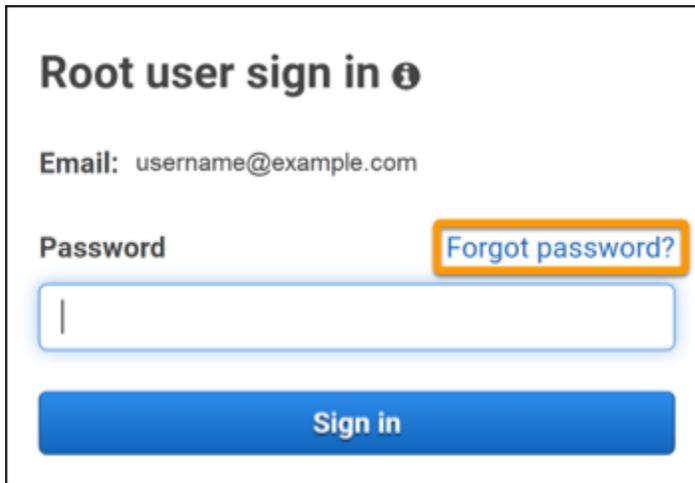
username@example.com

**Next**

**Note**

IAM ユーザー認証情報 [AWS Management Console](#) を使用して にサインインしている場合は、ルートユーザーのパスワードをリセットする前にサインアウトする必要があります。アカウント固有のIAMユーザーサインインページが表示された場合は、ページの下部にあるルートアカウントの認証情報を使用してサインインを選択します。必要に応じて、アカウントの E メールアドレスを指定し、[次へ] を選択して [ルートuser sign in (ルートユーザーサインイン)] ページにアクセスします。

2. [パスワードを忘れましたか?] を選択します。



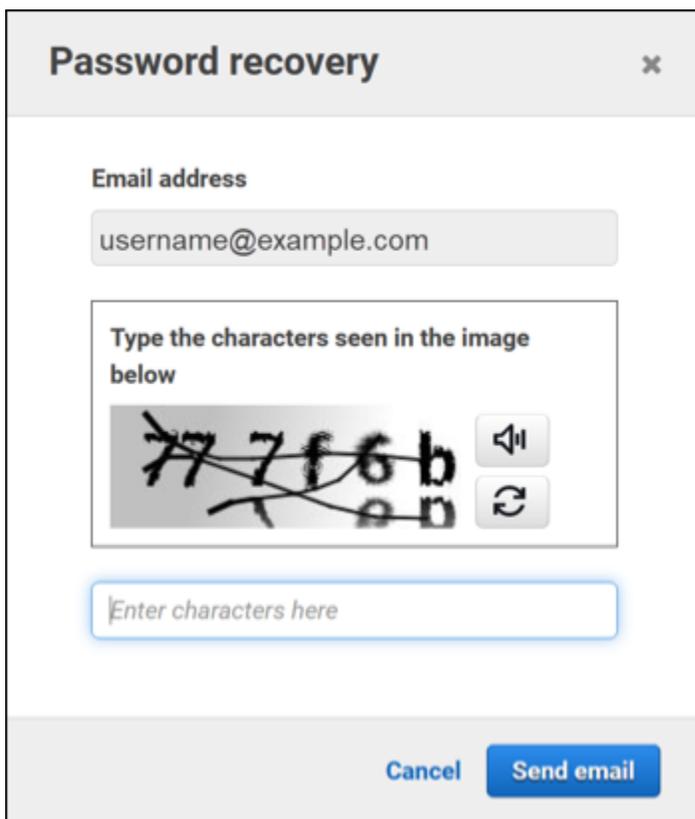
**Root user sign in**

Email: username@example.com

Password [Forgot password?](#)

Sign in

- パスワード復旧手順を完了します。セキュリティチェックを完了できない場合は、音声を聞か、セキュリティチェックを更新して新しい文字セットが試してください。パスワード復旧ページの例を次の画像に示します。



**Password recovery**

Email address

username@example.com

Type the characters seen in the image below

777f6b

Enter characters here

Cancel Send email

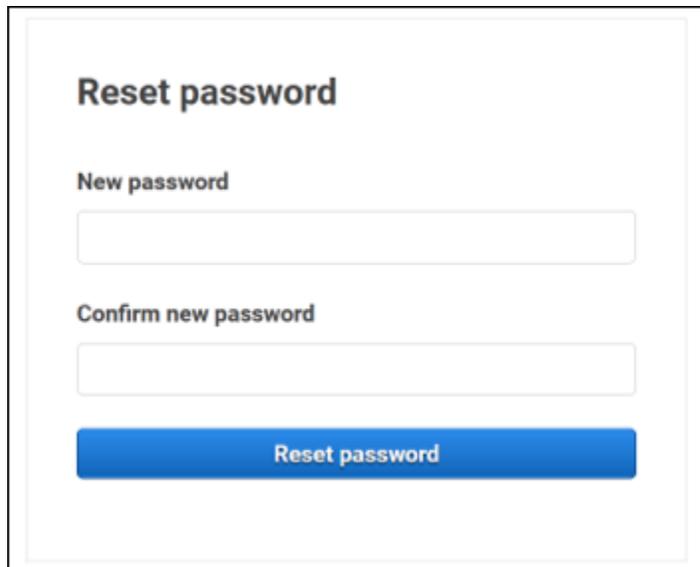
- パスワード復旧手順を完了すると、AWS アカウントに関連する E メールアドレスに詳細な手順が送信されたというメッセージを受け取ります。

AWS アカウントの作成に使用した E メールに、パスワードをリセットするためのリンクが送信されます。

**Note**

E メールは @signin.aws または @verify.signin.aws で終わるアドレスから届きます。

5. E AWS メールに記載されているリンクを選択して、AWS ルートユーザーのパスワードをリセットします。
6. リンクをクリックすると、新しいルートユーザーパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。



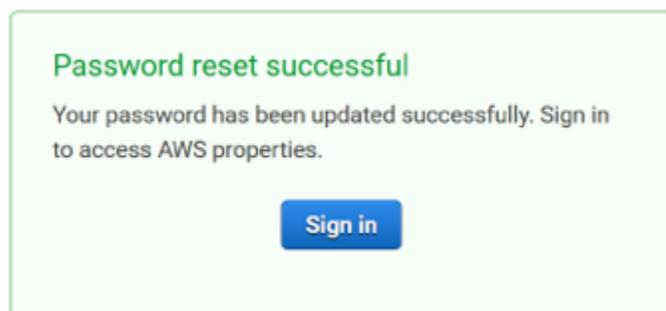
**Reset password**

New password

Confirm new password

Reset password

パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが届きます。パスワードのリセットが成功したことが次の画像に示します。



**Password reset successful**

Your password has been updated successfully. Sign in to access AWS properties.

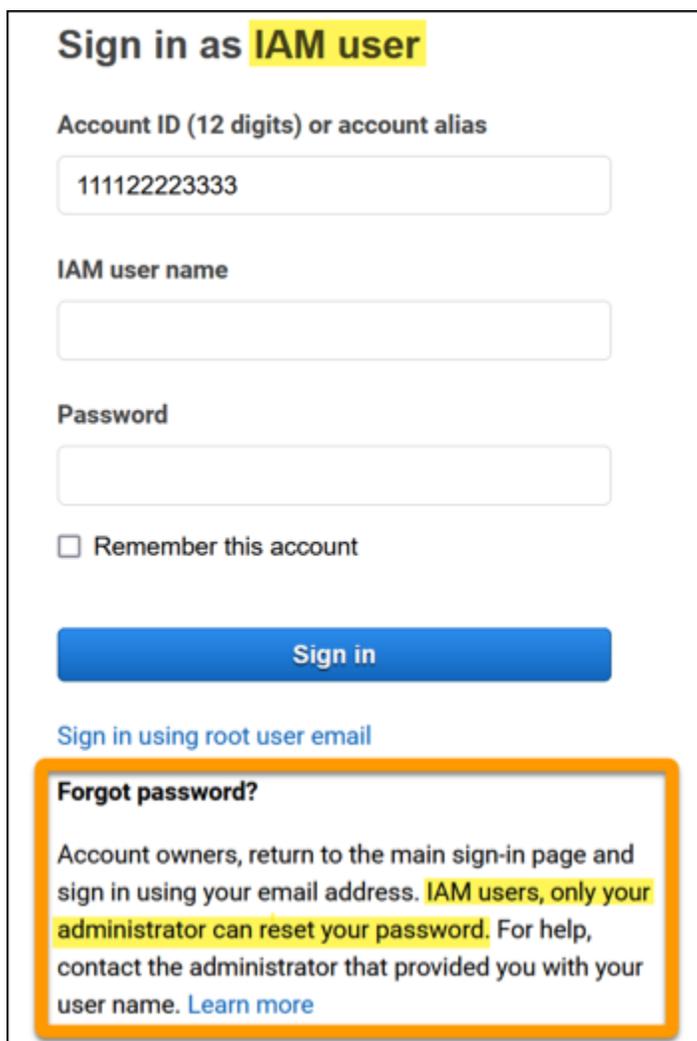
Sign in

ルートユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを復元する方法を教えてください。」](#)を参照してください。

# のIAMユーザーパスワードを忘れてしまいました AWS アカウント

IAM ユーザーパスワードを変更するには、適切なアクセス許可が必要です。IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、[IAM「ユーザーが自分のパスワードを変更する方法」](#)を参照してください。

パスワードをリセットするアクセス許可がない場合は、IAM管理者のみがIAMユーザーパスワードをリセットできます。IAM ユーザーはIAM管理者に連絡してパスワードをリセットする必要があります。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。



The screenshot shows the AWS IAM sign-in interface. At the top, it says "Sign in as IAM user". Below this are three input fields: "Account ID (12 digits) or account alias" (containing "111122223333"), "IAM user name", and "Password". There is a "Remember this account" checkbox and a blue "Sign in" button. Below the button, there is a link "Sign in using root user email". At the bottom, a box with an orange border contains the text: "Forgot password? Account owners, return to the main sign-in page and sign in using your email address. IAM users, only your administrator can reset your password. For help, contact the administrator that provided you with your user name. Learn more".

セキュリティ上の理由から、AWS Support 認証情報を表示、提供、または変更するためのアクセス権はありません。

IAM ユーザーパスワードのリセットの詳細については、[「紛失または忘れた AWS パスワードを回復する方法を教えてください。」](#)を参照してください。

管理者がパスワードを管理する方法については、[IAM「ユーザーのパスワードの管理」](#)を参照してください。

## のフェデレーション ID パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント

フェデレーテッド ID は、外部 ID AWS アカウント を使用して にアクセスするためにサインインします。使用する外部アイデンティティのタイプによって、フェデレーション ID のサインイン方法が決まります。管理者はフェデレーション ID を作成します。パスワードをリセットする方法の詳細については、管理者に確認してください。管理者は通常、組織の他のメンバー AWS アカウント よりも高いレベルのアクセス許可を持つ情報技術 (IT) 担当者です。この個人がアカウントを作成し、ユーザーにサインインするためのアクセス認証情報を提供します。

## 既存の にサインインできず AWS アカウント、同じ E メールアドレス AWS アカウント で新しい を作成できない

1 つの E メールアドレスには 1 つの AWS アカウントのルートユーザーにのみ関連付けることができます。ルートユーザーアカウントを閉鎖し、90 日以上閉鎖されたままである場合、アカウントを再度開いたり、このアカウントに関連付けられた E メールアドレス AWS アカウント を使用して新しい を作成したりすることはできません。

この問題を解決するには、新しいアカウントにサインアップするときに、通常の E メールアドレスの後にプラス記号 (+) を追加するサブアドレスを使用します。プラス記号 (+) の後には、大文字または小文字、数字、またはその他の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) でサポートされている文字を使用できます。たとえば、普段使っている E メールが `email@yourcompany.com` の場合、`email+1@yourcompany.com` または `email+tag@yourcompany.com` を使用できます。普段使っている E メールアドレスと同じ受信トレイに接続されていても、新しいアドレスと見なされません。新しいアカウントにサインアップする前に、追加した E メールアドレスにテストメールを送信して、メールプロバイダーがサブドレッシングをサポートしていることを確認することをお勧めします。

## 利用停止中の AWS アカウントを再度有効にする必要があります

AWS アカウント が中断され、それを復元する場合は、[「中断した を再度有効にする方法を教えてください」](#)を参照してください AWS アカウント。

## サインインの問題 AWS Support については、 に連絡する必要があります

すべてを試した場合は、[請求情報とアカウントサポートリクエスト](#)を完了 AWS Support することでサポートを受けることができます。

## 請求に関する問題 AWS Billing については、 に連絡する必要があります

にサインインできず AWS アカウント、請求の問題 AWS Billing に対して に連絡したい場合は、[請求およびアカウントサポートリクエスト](#)を通じて行うことができます。料金や支払い方法など AWS Billing and Cost Management、 の詳細については、[「のヘルプ AWS Billing」](#)を参照してください。

## 小売注文について質問があります

www.amazon.com アカウントに問題がある場合、または小売注文について質問がある場合は、[「サポートオプションとお問い合わせ」](#)を参照してください。

## の管理に関するヘルプが必要です AWS アカウント

のクレジットカードの変更 AWS アカウント、不正行為の報告、または の閉鎖に関するヘルプが必要な場合は AWS アカウント、[「に関するその他の問題のトラブルシューティング AWS アカウント」](#)を参照してください。

## AWS アクセスポータルの認証情報が機能しない

AWS アクセスポータルにサインインできない場合は、以前に にアクセスした方法を覚えておいてください AWS。

## パスワードを使ったことをまったく覚えていない場合

AWS 認証情報を使用 AWS せずに以前に にアクセスしたことがあるかもしれません。これは、IAM Identity Center を介したエンタープライズシングルサインオンで一般的です。AWS このようにアクセスすると、認証情報を入力せずに、企業の認証情報を使用して AWS アカウントまたはアプリケーションにアクセスすることになります。

- AWS アクセスポータル – 管理者が へのアクセスに外部からの認証情報の使用を許可している場合は AWS、ポータルURLの AWS が必要です。E メール、ブラウザのお気に入り、またはブラウザの履歴で、 `awsapps.com/start` または URLを含む を確認します `signin.aws/platform/login`。

例えば、カスタムに ID や などのドメインが含まれるURL場合があります `https://d-1234567890.awsapps.com/start`。ポータルリンクが見つからない場合は、admin. AWS Support can't help you recover this information. にお問い合わせください。

ユーザー名とパスワードを覚えていても認証情報が使えない場合は、間違ったページに移動している可能性があります。 `https://signin.aws.amazon.com` デレテッドユーザーまたは IAM Identity Center ユーザーが認証情報を使用してサインインできない場合は、ウェブブラウザURLで を確認します。

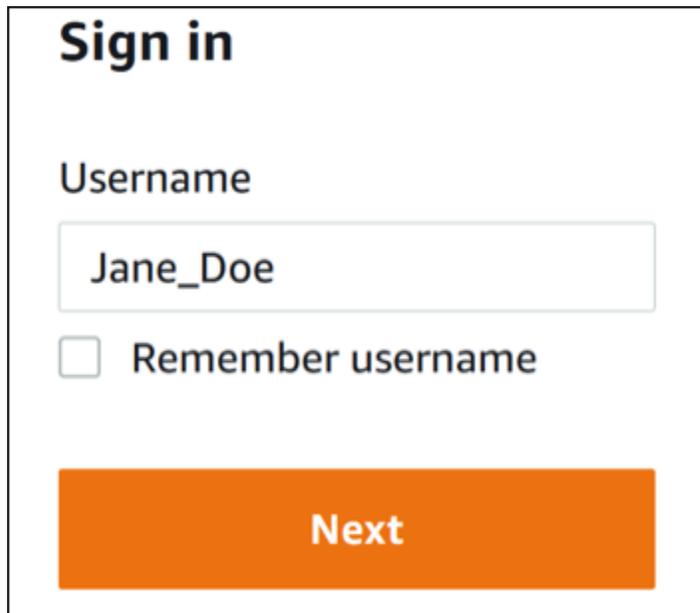
- AWS アクセスポータル – 管理者が の AWS IAM Identity Center ( AWS Single Sign-On の後継) ID ソースをセットアップする場合 AWS、組織の AWS アクセスポータルでユーザー名とパスワードを使用してサインインする必要があります。ポータルURLの を見つけるには、 `awsapps.com/start` または URLを含む の E メール、安全なパスワードストレージ、ブラウザのお気に入り、またはブラウザ履歴を確認します `signin.aws/platform/login`。例えば、カスタムURLに ID `https://d-1234567890.awsapps.com/start` や、ポータルリンクが見つからない場合は、管理者にお問い合わせください。この情報 AWS Support の復元はサポートされていません。

## の IAM Identity Center パスワードを忘れてしまいました AWS アカウント

IAM Identity Center のユーザーで、 のパスワードを紛失または忘れた場合は AWS アカウント、パスワードをリセットできます。IAM Identity Center アカウントに使用される E メールアドレスを把握し、それにアクセスする必要があります。パスワードをリセットするためのリンクが AWS アカウント E メールに送信されます。

## IAM Identity Center パスワードでユーザーをリセットするには

1. AWS アクセスポータルのURLリンクを使用してユーザー名を入力します。[次へ] を選択します。



**Sign in**

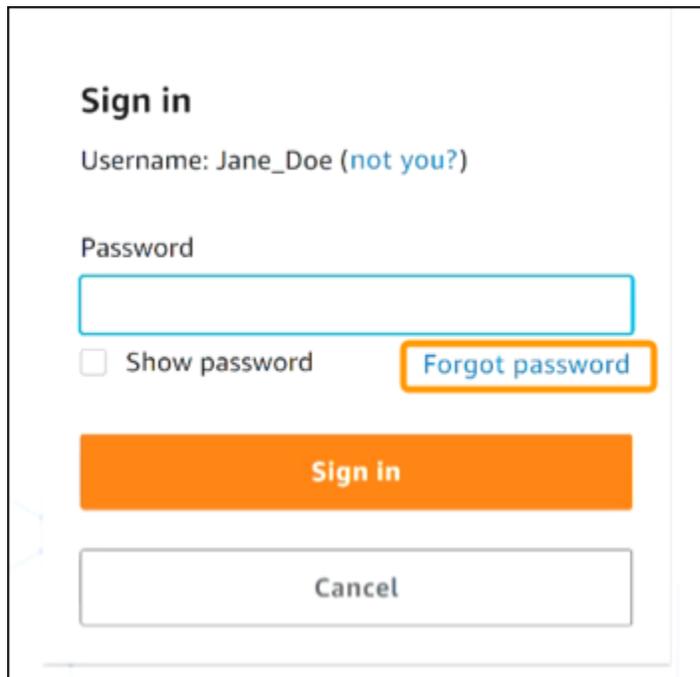
Username

Jane\_Doe

Remember username

Next

2. 次の画像に示すように、[パスワードを忘れた場合] を選択します。



**Sign in**

Username: Jane\_Doe (not you?)

Password

Show password [Forgot password](#)

Sign in

Cancel

3. パスワード復旧手順を完了します。

**Forgot password**

Verify that you're a real person. Enter the characters from the image below.

Username: Jane\_Doe

25br2n

Next

Cancel

4. パスワード復旧手順を完了すると、パスワードのリセットに使用できる E メールメッセージが送信されたことを確認する以下のメッセージが表示されます。

**Reset password email sent**

Please check your inbox. If you did not receive a password reset email, confirm that your username is correct, or ask your administrator to check your registered email.

Continue

パスワードをリセットするためのリンクが記載された E メールが、IAM Identity Center ユーザーアカウントに関連付けられた E メールに送信されます。E AWS メールに記載されているリンク

を選択して、パスワードをリセットします。リンクをクリックすると、新しいパスワードを作成するための新しい Web ページに移動します。新しいパスワードを作成すると、パスワードのリセットが成功したことを示す確認メッセージが表示されます。

パスワードをリセットする E メールが届かない場合は、管理者に依頼して、IAM Identity Center でユーザーに登録されている E メールを確認します。

## IAM Identity Center コンソールにサインインしようとする時、「ユーザーではありません。ユーザーです」というエラーが表示されます。

このエラーは、IAM Identity Center のインスタンスまたは ID ソースとして使用している外部 ID プロバイダー (IdP) でセットアップに問題があることを示します。以下を確認することをお勧めします。

- サインインに使用しているデバイスの日付と時刻の設定を確認します。日付と時刻を自動的に設定できるようにすることをお勧めします。これが利用できない場合は、日付と時刻を既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに同期することをお勧めします。
- IAM Identity Center にアップロードされた IdP 証明書が、ID プロバイダーから提供された証明書と同じであることを確認します。Identity [IAM Center コンソール](#) から証明書を確認するには、設定に移動します。ID ソースタブのアクションで、**認証の管理** を選択します。新しい証明書をインポートする必要がある場合があります。
- IdP の SAML メタデータファイルで、NameID 形式が `urn:oasis:names:tc:SAML:1.1:nameid-format:emailAddress` であることを確認します。
- AD Connector を使用している場合は、サービスアカウントの認証情報が正しく、有効期限が切れていないことを確認します。詳細については、「」の [「AD Connector サービスアカウントの認証情報を更新する AWS Directory Service](#)」を参照してください。

# AWS Builder ID の問題のトラブルシューティング

ここに記載されている情報は、で発生する可能性のある問題のトラブルシューティングに役立ちます AWS ビルダー ID。

## トピック

- [メールアドレスが既に使われています](#)
- [メールの確認を完了させることができない](#)
- [自分のでサインインしようとする、 「ユーザーではありません。自分です」というエラーが表示されます。 AWS ビルダー ID](#)
- [パスワードを忘れてしまいました](#)
- [新しいパスワードを設定できない](#)
- [パスワードが機能しません。](#)
- [パスワードが機能せず、 Builder ID の E メールアドレスに送信された E AWS メールにアクセスできなくなります](#)
- [有効にできない MFA](#)
- [認証アプリケーションをMFAデバイスとして追加できない](#)
- [MFA デバイスを削除できない](#)
- [認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする、 「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示されます](#)
- [サインアウトしても完全にサインアウトされない](#)
- [まだ問題を解決しようとしています](#)

## メールアドレスが既に使われています

入力した E メールが既に使用中で、それを自分のものとして認識している場合は、既に Builder ID AWS にサインアップしている可能性があります。そのメールアドレスを使用してサインインしてみてください。パスワードを覚えていない場合、 [「パスワードを忘れてしまいました」](#) を参照してください。

## メールの確認を完了させることができない

Builder ID にサインアップしたが、検証 E AWS メールを受信していない場合は、次のトラブルシューティングタスクを完了します。

1. スпамアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダを確認してください。

### Note

この検証 E メールは、[no-reply@signin.aws](mailto:no-reply@signin.aws) または [no-reply@login.awsapps.com](mailto:no-reply@login.awsapps.com) のアドレスから送信されます。これらの送信者メールアドレスからのメールを受け入れ、迷惑メールやスパムとして処理しないように、メールシステムを設定することをお勧めします。

2. コードを再送信を選択し、受信トレイを更新して、スパムアイテム、迷惑メールアイテム、削除済みアイテムのフォルダをもう一度確認します。
3. それでも確認 E メールが表示されない場合は、ビルダー ID AWS の E メールアドレスにタイプミスがないか再確認してください。間違ったメールアドレスを入力した場合は、自分のメールアドレスでもう一度サインアップしてください。

## 自分の でサインインしようとする、「ユーザーではありません。自分です」というエラーが表示されます。AWS ビルダー ID

サインインに使用しているデバイスの日付と時刻の設定を確認します。日付と時刻を自動的に設定できるようにすることをお勧めします。これが利用できない場合は、日付と時刻を既知の [Network Time Protocol \(NTP\)](#) サーバーに同期することをお勧めします。

## パスワードを忘れてしまいました

忘れたパスワードをリセットするには

1. AWS ビルダー ID でサインイン ページで、ビルダー ID の作成に使用した E AWS メールを E メールアドレス に入力します。[Next (次へ)] を選択します。
2. パスワードを忘れましたか? を選択します。パスワードをリセットできる Builder ID AWS に関連付けられた E メールアドレスへのリンクが送信されます。
3. メールの指示に従います。

## 新しいパスワードを設定できない

セキュリティ上の理由から、パスワードを設定または変更するときは必ず次の要件に従う必要があります。

- パスワードでは、大文字と小文字が区別されます。
- パスワードの長さは8文字から64文字の間でなければなりません。
- パスワードには、次の4つカテゴリから少なくとも1文字を含める必要があります。
  - 小文字 a～z
  - 大文字 A～Z
  - 数字 0～9
  - 英数字以外の文字 ~!@#\$%^管理ポータル\*\_+=`|\}{:;'"<>,.?/
- 最後の3つのパスワードは再使用できません。
- 第三者から漏洩したデータセットを通じて公に知られているパスワードは使用できません。

## パスワードが機能しません。

パスワードを覚えているが、AWS ビルダー ID でサインインするときに機能しない場合は、次の要件に従っていることを確認してください。

- キャップロックはオフです。
- 古いパスワードは使用していません。
- ビルダー ID AWS パスワードは [こちら](#) ではなく、使用しています AWS アカウント。

パスワードが正しく入力 up-to-date され、それでも機能しない場合は、「[パスワードを忘れてしまいました](#)」の手順に従ってパスワード [パスワードを忘れてしまいました](#) をリセットします。

## パスワードが機能せず、Builder ID の E メールアドレスに送信された E AWS メールにアクセスできなくなります

それでも AWS Builder ID にサインインできる場合は、プロフィールページを使用して Builder ID の E メールを新しい E AWS メールアドレスに更新します。Eメールの検証が完了すると、[こちら](#) にサインイン AWS して、新しい E メールアドレスで通信を受信できます。

職場や大学のメールアドレスを使用していて、その後会社や学校を辞め、そのアドレスに送信されたメールを受信できない場合や、ビルダー ID にサインインできない場合は、そのメールシステムの管理者に連絡してください。メールを新しいアドレスに転送したり、一時的なアクセスを許可したり、メールボックスのコンテンツを共有したりできる場合があります。

## 有効にできない MFA

を有効にするにはMFA、「」の手順に従って1つ以上のMFAデバイスをプロファイルに追加します[AWS ビルダー ID 多要素認証を管理する \(MFA\)](#)。

## 認証アプリケーションをMFAデバイスとして追加できない

別のMFAデバイスを追加できないことがわかった場合は、そのアプリケーションに登録できるMFAデバイスの制限に達している可能性があります。未使用のMFAデバイスを削除するか、別の認証アプリケーションを使用してください。

## MFA デバイスを削除できない

を無効にする場合はMFA、「」の手順に従ってMFAデバイスの削除に進みます[MFA デバイスを削除する](#)。ただし、MFA有効にしておく場合は、既存のMFAデバイスを削除する前に別のMFAデバイスを追加する必要があります。別のMFAデバイスの追加の詳細については、「」を参照してください[AWS ビルダー ID 多要素認証を管理する \(MFA\)](#)。

## 認証アプリケーションを使用して登録やサインインをしようとする と、「予期しないエラーが発生しました」というメッセージが表示 されます

Builder ID がコードベースの認証アプリと組み合わせて使用するものなど、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) AWS システムは、クライアントとサーバー間の時間同期に依存します。認証アプリケーションがインストールされているデバイスが信頼できるタイムソースに正しく同期されていることを確認するか、やその他の[NIST](#)ローカル/リージョンの同等のものなど、信頼できるソースと一致するようにデバイス上の時間を手動で設定します。

## サインアウトしても完全にサインアウトされない

システムはすぐにサインアウトするように設計されていますが、完全にサインアウトするには最大で1時間かかる場合があります。

### まだ問題を解決しようとしています

[サポートフィードバックフォーム](#)に記入できます。リクエスト情報セクションの「How can we help you」で、Builder ID AWS を使用していることを含めます。問題に最大限効率的に対処できるように、できるだけ詳しく説明してください。

## ドキュメント履歴

次の表は、AWS サインインドキュメントへの重要な追加点を示しています。また、お客様からいただいたフィードバックに対応するために、ドキュメントを頻繁に更新しています。

- ドキュメントの最終更新日: 2024 年 2 月 27 日

変更	説明	日付
<a href="#">トラブルシューティングのトピックを更新</a>	AWS ビルダー ID と <a href="#">にサインインするための新しいトラブルシューティングトピック</a> を追加しました AWS Management Console。	2024 年 2 月 27 日
<a href="#">組織に関するいくつかのトピックを更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプ</a> を更新、ユーザータイプの確認を削除し、その内容を <a href="#">ユーザータイプ</a> に組み込み、 <a href="#">にサインインする方法 AWS</a>	2023 年 5 月 15 日
<a href="#">いくつかのトピックとトップバナーを更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプ</a> 、ユーザータイプの決定、 <a href="#">へのサインイン方法 AWS</a> 、 <a href="#">AWS サインインとは</a> を更新しました。ルートユーザーと IAM ユーザーのサインイン手順も更新されました。	2023 年 3 月 3 日
<a href="#">AWS Management Console サインインの概要の段落を更新しました</a>	<a href="#">ユーザータイプの決定</a> をページ上部に移動し、 <a href="#">アカウントルートユーザー</a> にあるメモを削除しました。	2023 年 2 月 27 日
<a href="#">追加 AWS ビルダー ID</a>	AWS サインインユーザーガイドに AWS ビルダー ID トピックを追加し、コンテンツ	2023 年 1 月 31 日

を既存のトピックに統合しました。

### 組織の最新情報

お客様からのフィードバックに基づいて、[を更新](#)TOCし、サインイン方法を明確にしました。サインインチュートリアルを更新しました。[用語](#)と[ユーザータイプの決定](#)を更新しました。クロスリンクが改善され、IAMユーザーやルートユーザーなどの用語を定義できるようになりました。

2022 年 12 月 22 日

### 新しいガイド

これは AWS 「サインインユーザーガイド」の最初のリリースです。

2022 年 8 月 31 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。